

Nikon

スピードライト

SB-5000

活用ガイド



「Nikon Manual Viewer 2」アプリ
ニコンデジタルカメラの説明書をスマートフォンや
タブレットで見ることができるアプリです。
AppStore または Google Play から無料でダウン
ロードできます。

Jp

お使いになる前に

A

SB-5000 と活用ガイドについて

このたびはニコンSB-5000をお買い上げくださりまして、誠にありがとうございます。ご使用前に、使用説明書と活用ガイド(本書)をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。

お
使
い
に
な
る
前
に

■ 知りたいことの探し方

🔍 目次から (□A-11)

操作方法、発光モード、撮影機能など、項目別に探せます。

🔍 目的別かんたん検索から (□A-8)

名称や用語が分からなくても、使いたいことや知りたいことから探せます。

🔍 索引から (□H-24)

英数字、五十音順の索引から探せます。

🔍 故障かな?と思ったらから (□H-1)

動作がおかしいときや警告表示が出たときに役立ちます。

⚠️ 安全上のご注意

安全にスピードライトをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。スピードライトをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□A-14～A-19をご覧ください。

SB-5000

Model Name: N1502

A-1

■ SB-5000について

SB-5000は、ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応のカメラとの組み合わせに最適化された、ガイドナンバー34.5（ISO 100・m）（照射角35mm、FXフォーマット、スタンダード配光時）の高性能スピードライトです。従来の光制御に加え、電波制御によるワイヤレス増灯撮影にも対応しています。

CLS対応カメラ

FXフォーマット/DXフォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ（D1シリーズ、D100を除く）、F6、CLS対応ニコンコンパクトデジタルカメラCOOLPIX（□G-1）

■ 活用ガイドについて

この「活用ガイド」は、SB-5000とCLS対応カメラ、CPUレンズ（□A-3）との組み合わせを前提に説明しています。

ご使用前に使用説明書と活用ガイド（本書）をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。

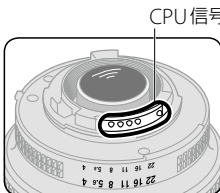
- CLS非対応一眼レフカメラとの組み合わせについては「CLS非対応一眼レフカメラ使用時」（□F-1）をご覧ください。
- i-TTL調光対応COOLPIX（P5100、P5000、E8800、E8700、E8400）との組み合わせについては「COOLPIXとの組み合わせについて」（□G-1）をご覧ください。
- カメラについての詳細は、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。
- 本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

本文中のマークについて

- ✓ 製品の故障や撮影の失敗を防ぐために注意していただきたいことを記載しています。
- ✍ 製品を使用する際に知っておいていただきたいこと、便利な情報やヒントを記載しています。
- 📖 活用ガイド上で関連情報が記載されているページです。

✍ CPUレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点があります。



- ・IXニッコールレンズとの組み合わせでは使用できません。

✍ 使用説明書および活用ガイドの取り扱いについて

使用説明書および活用ガイドの一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。

- ・使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

- ・ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

用語と表記について

■ ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS)

ニコンのスピードライトとカメラの先進的なデータ通信方式により、さまざまなスピードライト撮影機能を可能にしたシステムです。

■ ユニファイドフラッシュコントロール

スピードライトとカメラの間で、フラッシュ発光に関する各種設定を共有できる機能です。

■ i-TTL調光

モニター発光を行って被写体からの反射光をカメラが測光して、スピードライトの発光を制御します。

■ バランス調光 (i-TTL-BL調光)

被写体と背景光のバランスを考慮して発光量を制御します。

■ スタンダードi-TTL調光

背景光を考慮せず、主要被写体が基準露光量になるように発光量を制御します。

■ マニュアル発光

撮影者が任意の発光量と絞り値の組み合わせで露出を設定できる発光モードです。

■ 絞り連動外部自動調光

スピードライトの発光による被写体からの反射光をスピードライトが測光し、カメラからの情報を加えて発光量を制御します。

■ 外部自動調光

スピードライトの発光による被写体からの反射光をスピードライトが測光し、発光量を制御します。

■ 距離優先マニュアル発光

スピードライトから被写体までの距離を設定すれば、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定するマニュアル発光です。

■ リピーティング発光

シャッターが開いている間、スピードライトが連続発光して、1コマの画面に被写体の連続的な動きを写し込める発光モードです。

■ ワイヤレス増灯撮影

ワイヤレスで複数のスピードライトを同時発光させる撮影です。

電波制御

電波信号を利用して、複数のスピードライトを制御する方式です。

光制御

光パルスを利用して、複数のスピードライトを制御する方式です。

マスターフラッシュ（主灯）

増灯撮影時に、カメラに装着したスピードライトです。

リモートフラッシュ（補助灯）

マスターフラッシュまたはカメラ側からの指示を受けて発光するスピードライトです。

アドバンストワイヤレスライティング撮影

CLS対応のワイヤレス増灯撮影。マスターフラッシュから複数のリモートフラッシュのグループの発光を制御できます。

クイックワイヤレスコントロール

リモートフラッシュをA、Bの2つのグループに分けて、簡単に光量比が設定できるワイヤレス増灯撮影です。

ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影

モニター発光しないため、マスターフラッシュとリモートフラッシュの発光にタイムラグがほとんどなく、特に動きが速い被写体に適しているワイヤレス増灯撮影です。

リンクモード

カメラとスピードライトの通信方式選ぶモードです。ペアリングまたはPINコードを選びます。

ペアリング

予めペアリングを実行しているカメラとスピードライトで通信を行う通信方式です。

PINコード

4桁のPINコードが合ったカメラとスピードライトで通信を行う通信方式です。

■ モニター発光

被写体からの反射光を測光するために、本発光の直前に行われる極めて短時間の発光です。

■ 調光距離

スピードライトの光で適正露出が得られる、スピードライトから被写体までの距離です。

■ 調光範囲

調光距離の範囲です。

■ 照射角

スピードライトの光が照射される角度です。

■ 調光補正

スピードライトの発光量を意図的に変えて、主要被写体の明るさを変えることをいいます。

■ 初期設定

ご購入時に設定されている機能やモードの設定状態です。

■ 配光タイプ

画面中央と周辺の光量差の制御タイプ。スタンダード配光、均質配光、中央部重点配光の3タイプが選択できます。

■ テスト発光

スピードライトが正常に作動するかどうかを確認するため発光です。

■ モデリング発光

てかりや影など、ライティング状態をチェックするための発光です。一定の微小光量で連続発光します。

■ FX/DXフォーマット（撮像範囲）

ニコンカメラの撮影画面サイズ。FXフォーマット(36×24)とDXフォーマット(24×16)の2つがあります。

■ ガイドナンバー (GN)

スピードライトの発光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離(m)」(ISO感度が100の場合)という関係があります。

■ 1段

シャッタースピードや絞り値の変化量の単位。1段変化すると、カメラが取り込む光の量は2倍、または1/2になります。

■ EV (Exposure Value : 露出値)

シャッタースピードや絞り値が1段変化すると、1EV変化します。絞り値がF1.4、シャッタースピードが1秒のとき、適正露出になる被写体の明るさがEV1と規定されています。

EV値が大きくなるほど、撮像素子やフィルムに与える露光量は多くなります。

■ 先幕シンクロ／後幕シンクロ

先幕シンクロで撮影すると、シャッターの先幕走行終了直後にスピードライトが発光し、光の軌跡が被写体の前方に流れます。後幕シンクロで撮影すると、シャッターの後幕走行開始直前にスピードライトが発光し、光の軌跡が被写体の後方に流れる自然な撮影ができます。

目的別かんたん検索

使いたいことや知りたいことから、記載ページを簡単に探せます。

■ 撮影について-1

SB-5000をカメラのアクセサリースューに接続して使用する

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	□
発光モードを知りたい	発光モード	C-1
いちばん簡単な手順で撮影したい	撮影の基本ステップ	B-12
発光モードを変えたい	発光モードの切り換え	B-18
i-TTL 調光時に 光量不足のアンダー量を確認したい	TTL 調光アンダー量 表示	C-3
照射角を変えたい	オートパワーズーム	E-19
レンズの焦点距離に合わせて 照射角を自動的に設定したい	オートパワーズーム	E-19
絞り値を変えたい	外部自動調光	C-10
発光量を変えたい	マニュアル発光	C-4
横に並んだ大勢の人の記念写真を撮りたい	均質配光	E-2
人物が引き立つポートレートを撮りたい	中央部重点配光	E-2
後ろの壁に映る影を消して撮影したい	バウンス撮影	E-3
主要な被写体を明るく(暗く)して撮影したい	調光補正	E-18
ライティング状態を確認してから撮影したい	モデリング発光	E-23
蛍光灯や電球の影響を緩和して撮影したい	カラーフィルター	E-12
スピードライトの光に色をつけて撮影したい	カラーフィルター	E-12
暗い被写体をオートフォーカスで撮りたい	AF 補助光	E-20
高速シャッターで SB-5000 を使いたい	オート FP ハイスピード シンクロ撮影 (FP 発光)	E-26

A

お使いになる前に

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	□
人物と背景の夜景の両方をきれいに撮りたい	スローシンクロ (スローシャッター) 撮影	E-27
人物の瞳が赤くならないように撮影したい	赤目軽減発光撮影	E-27
連続した動きを分解写真のように写したい	リピーティング発光	C-15
CLSに対応していない一眼レフカメラと組み合わせて使いたい	CLS 非対応一眼レフ カメラ使用時	F-1
COOLPIX と組み合わせて使いたい	COOLPIX との組み 合わせ	G-1

■ 撮影について-2

SB-5000をワイヤレスで使用する

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	□
複数のスピードライトを使って撮影したい	ワイヤレス増灯撮影	D-1
カメラ側で発光設定をしてワイヤレス増灯撮影がしたい	ワイヤレス増灯撮影	D-1
動きが速いものをワイヤレス増灯撮影したい	ダイレクトリモート	D-27
ワイヤレス増灯撮影ができる COOLPIX と組み合わせて使いたい	CLS 対応 COOLPIX	G-1
マスターフラッシュとして使いたい	マスターフラッシュ	D-7
リモートフラッシュとして使いたい	リモートフラッシュ	D-8

■ 設定や操作について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
使用できる電池を知りたい	使用できる電池	B-13
電池別の発光間隔や発光回数を知りたい	電池別の発光間隔と発光回数	H-19
各種の設定の変更方法を知りたい	メニュー設定	B-19
いろいろな設定をリセットしたい	ツールボタンリセット	B-10
操作ボタンが不用意に押されて誤作動するのを防ぎたい	キーロック	B-8
スタンバイ状態になるまでの時間を変更したい	メニュー設定	B-19
ファームウェアのバージョンを確認したい	メニュー設定	B-19
ファームウェアをバージョンアップしたい	ファームアップの方法	H-10

A

お使いになる前に

目次

A

A

お使いになる前に

SB-5000と活用ガイドについて	A-1
目的別かんたん検索	A-8
安全上のご注意	A-14
電波に関するご注意	A-20
ご確認ください	A-22

B

操作方法

各部の名称	B-1
設定と表示について	B-4
i メニューについて	B-9
ユニファイドフラッシュコントロールについて	B-11
撮影の基本ステップ	B-12
メニュー設定について	B-19

C

発光モード

i-TTL 調光	C-1
マニュアル発光	C-4
絞り連動外部自動調光	C-7
外部自動調光	C-10
距離優先マニュアル発光	C-13
リピーティング発光	C-15

D

ワイヤレス増灯撮影

SB-5000を用いたワイヤレス増灯撮影の使用例	D-1
SB-5000の電波制御ワイヤレス増灯撮影について	D-3
SB-5000の光制御ワイヤレス増灯撮影について	D-4
SB-5000のワイヤレス増灯撮影機能	D-6
マスターフラッシュとしての設定	D-7
リモートフラッシュとしての設定	D-8
撮影のための準備	D-9
アドバンストワイヤレスライティング撮影	D-15
ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影	D-27
リモートフラッシュの配置について	D-31
光制御と電波制御の併用について	D-35
ワイヤレス増灯撮影時の状況確認について	D-37

E

主な機能

配光タイプ切り換え機能	E-2
バウンス撮影	E-3
近距離撮影	E-9
カラーフィルターを使用した撮影	E-12
撮影をサポートする機能	E-18
• 調光補正	
• オートパワーズーム	
• AF 補助光	
• テスト発光	
• モデリング発光	
• スタンバイ	
• 過熱防止	

カメラ側の設定による撮影機能	E-26
・オートFPハイスピードシンクロ撮影 (FP 発光)	
・FVロック撮影	
・スローシンクロ (スローシャッター) 撮影	
・赤目軽減発光撮影	
・後幕シンクロ撮影	

CLS非対応一眼レフカメラ使用時	F-1
------------------------	-----

COOLPIXとの組み合わせについて	G-1
--------------------------	-----

使用上のご注意・資料

故障かな?と思ったら	H-1
ガイドナンバーと絞り値、距離について	H-5
お手入れについて	H-6
電池についてのご注意	H-8
表示パネルについて	H-9
ファームアップの方法	H-10
使用できるアクセサリ	H-11
仕様	H-17
索引	H-24
ニコンプラザ、サービスセンターのご案内	H-27
アフターサービスについて	H-29

安全上のご注意

傷害や損害ならびに事故を未然に防止するため、本製品をお使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みになって正しくお使いください。この説明書をお読みになった後は、いつでも参照できるよう保管してください。

A

お使いになる前に



危険 (死亡または重傷を負う可能性が高い事項)



警告 (死亡または重傷を負う可能性がある事項)



注意 (傷害や物的損害を負う可能性がある事項)









図記号の例









禁止 (してはいけないこと) の図記号です。











実行 (必ずすべきこと) の図記号です。








⚠ 警告 (スピードライトについて)	
 禁止	分解、修理または改造をしない ケガや故障の原因になります。
 禁止	落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に手を触れない 感電やケガの原因になります。
 実行	熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り外す 放置すると、発火、やけどの原因になります。 電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。 ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
 禁止	水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしない 感電、発火や故障の原因になります。
 禁止	引火、爆発のおそれのある場所では使わない プロパンガス、ガソリンスタンドなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、発火や爆発の原因になります。
 禁止	スピードライトを人の目に近づけて発光しない 視力障害の原因になります。 撮影時には、1m以上離れてください。
 禁止	車の運転者などに向けてスピードライトを発光しない 事故の原因になります。
 禁止	発光パネル部を人体やものに密着させて発光させない やけどや発火の原因になります。






⚠ 注意 (スピードライトについて)	
 禁止	ぬれた手でさわらない 感電の原因になります。
 禁止	幼児の手の届くところに置かない 飲み込んだら、すぐに医師の診断を受ける。
 禁止	強い衝撃を与えない 故障の原因になります。
 実行	連続発光後は本体 (特に発光パネル部) や電池の発熱に注意する やけどの原因になります。
 禁止	シンナーやベンジンなどの有機溶剤でふかない プラスチック部品が変色したり破損したりするおそれがあります。
 禁止	防虫剤と一緒に保管しない プラスチック部品が変色したり破損したりするおそれがあります。
 実行	長期間使用しないときは、電池を取り外す 電池の液もれや故障の原因になります。
 禁止	窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、 異常に温度が高くなる場所に放置しない 故障や発火の原因になります。

⚠ 危険 (アルカリ電池について)	
 実行	電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな 水で洗い、医師の治療を受ける 放置すると、目に傷害を与える原因になります。








⚠ 警告 (アルカリ電池について)

 禁止	電池を火に入れたり、加熱しない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池を 混ぜて使用しない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	電池を分解しない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に運んだり、 保管したりしない ビニール袋などに入れるなどして絶縁する 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	電池は、幼児の手の届くところに置かない 飲み込んだら、すぐに医師の診断を受ける。
 禁止	電池の「+」と「-」の向きを間違えない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	充電池以外は充電しない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 実行	電池からもれた液が皮膚や衣類に付いたら、すぐにきれいな 水で洗い流す 放置すると、皮膚のかぶれなどの原因になります。



⚠ 注意 (アルカリ電池について)	
 禁止	電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	外装チューブをはがしたり、傷をつけない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	水につけたり、ぬらさない 液もれ、発熱の原因になります。
 禁止	変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、 使用しない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 実行	電池に表示された警告、注意を守る 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 実行	使用説明書に表示された電池を使用する 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 実行	電池を廃棄するときは、ビニールテープなどで接点部を絶縁する 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因になります。 お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

⚠ 危険 (ニッケル水素充電電池について)	
 実行	専用の充電器を使用し、4本同時に充電する 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 禁止	電池を火に入れたり、加熱しない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	電池を分解しない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 禁止	新しい電池と使用した電池、型番やメーカーの異なる電池を 混ぜて使用しない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
 実行	電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな 水で洗い、医師の治療を受ける 放置すると、目に傷害を与える原因になります。

⚠ 警告 (ニッケル水素充電機について)

	禁止	外装チューブをはがしたり、傷をつけない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
	禁止	電池の「+」と「-」の向きを間違えない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
	実行	電池に表示された警告、注意を守る 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
	禁止	水につけたり、ぬらさない 液もれ、発熱の原因になります。
	禁止	変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、 使用しない 放置すると、液もれ、発熱、破裂の原因になります。
	禁止	ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に運んだり、 保管したりしない ビニール袋などに入れるなどして絶縁する 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
	禁止	電池は、幼児の手の届くところに置かない 飲み込んだら、すぐに医師の診断を受ける。
	実行	電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたら、すぐにきれいな 水で洗い流す 放置すると、皮膚のかぶれなどの原因になります。
	実行	電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときには、 ビニールテープなどで接点部を絶縁する 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因になります。 ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

⚠ 注意 (ニッケル水素充電機について)

	禁止	電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
	実行	使用説明書に表示された電池を使用する 液もれ、発熱、破裂の原因になります。

電波に関するご注意

A

お
使
い
に
な
る
前
に

- 1 本製品は電波法に基づく認証および技術基準適合認定を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
- 2 本製品はご購入された国の電波に関する法律に準拠しており、本製品の無線機能はご購入された国以外ではご使用になれませんのでご注意ください。ご購入国以外でのご使用については、当社では一切の責任を負いかねます。ご購入された国が不明確で判断ができないときはお近くのサービス機関またはカスタマーサポートセンターにご相談ください。
- 3 磁気、静電気、電波障害が発生するところでは本製品を使用しないでください。通信が不安定になることがあります。特に、近くで電子レンジを使用している場合には影響を受ける可能性があります。
※ 2.4GHz帯の電波を使用している機器の近くで使用すると、電波干渉により通信速度が低下したり、通信が切断する場合があります。
- 4 本製品は、技術基準適合認定を受けていますので、以下の事項をおこなうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造すること
 - 本製品に印刷してある証明ラベルをはがすこと
- 5 本製品の使用する周波数帯は、以下の機器や無線局と同じ周波数帯です。
 - 産業・科学・医療用機器
 - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
 - 1 構内無線局（免許を要する無線局）
 - 2 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
 - アマチュア無線局（免許を要する無線局）

- 6 本製品を使用する場合は、前項の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。
- 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに本製品の使用チャンネルを変更して、電波干渉をしないようにしてください。
 - その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、ニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

ご確認ください

A

お
使
い
に
な
る
前
に

■ 保証書について

本製品には「保証書」が付いていますので、内容をよくご確認ください。

■ カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

<https://reg.nikon-image.com/>

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

■ カスタマーサポート

下記のホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

■ 大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてスピードライトが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害など）についての補償はご容赦願います。

■ 本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のカメラおよびアクセサリに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

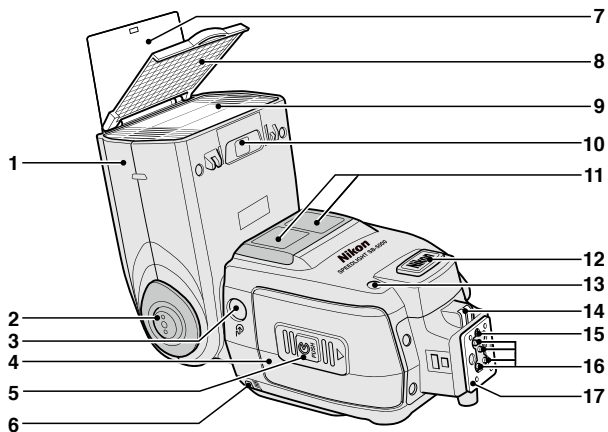
- ・ 他社製品や模倣品と組み合わせると、本製品の十分な性能が発揮できないほか、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

操作方法

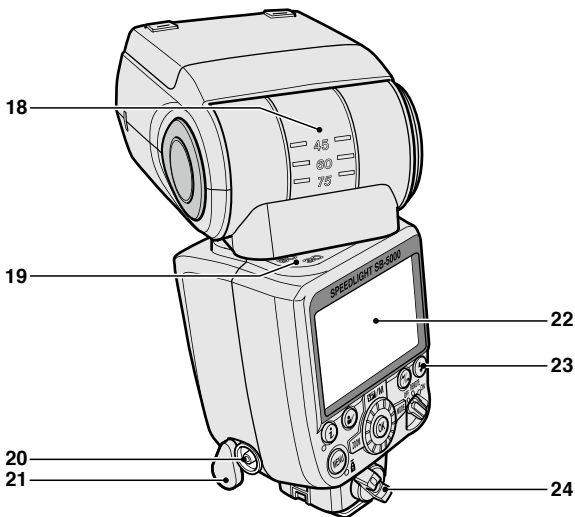
各部の名称

B

操作方法



1. フラッシュヘッド
2. フラッシュヘッドロック解除ボタン (□B-16)
3. ワイヤレスリモートセンサー窓 (□D-33)
4. 電池ぶた
5. 電池ぶたロック解除ボタン (□B-12)
6. LINKライト
7. キャッチライト反射板(□E-8)
8. ワイドパネル (□E-10)
9. 発光パネル
10. カラーフィルター識別センサー (□E-15)
11. AF補助光 (□E-20)
12. 外部電源コネクター (キャップ付き) (□H-15)
13. 外部自動調光用センサー窓 (□C-7、C-10)
14. 外部AF補助光接点
15. ロックピン
16. カメラ連動接点
17. 取付け脚



18. フラッシュヘッド上下回転角度目盛 (□E-3)

19. フラッシュヘッド左右回転角度目盛 (□E-3)

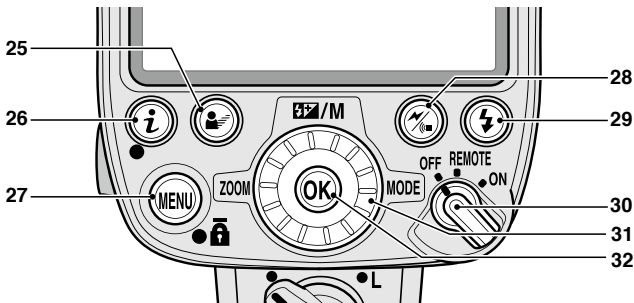
20. シンクロターミナル

21. シンクロターミナルキャップ

22. 表示パネル (□B-4)

23. レディーライト (□B-18、D-37)

24. ロックレバー (□B-14)



25. モデリング発光ボタン

- ・モデリング発光が (□E-23) できます。

26. *i*ボタン

- ・*i*メニュー画面を表示します。(□B-9)

27. MENU ボタン

- ・メニュー画面を表示します。(□B-19)

28. ワイヤレス設定ボタン

- ・制御方式を切り換えます。
- ・電源スイッチの指標位置によって、設定できる内容が異なります。(□B-7)

REMOTE :

光制御リモートモード
ダイレクトリモートモード
電波制御リモートモード

ON :

1灯モード
光制御マスターモード
電波制御マスターモード

29. テスト発光ボタン

- ・テスト発光 (□E-22) ができます。

30. 電源スイッチ

- ・電源のON/OFFを設定します。
- ・各マークに指標を合わせ、使用する機能を設定します。

REMOTE : リモートモード
(□D-8)

ON : 1灯モード
(□B-17、C-1)
マスターモード(□D-7)

31. ロータリーマルチセレクター

- ・発光モードや各種項目を選択します。(□B-5)

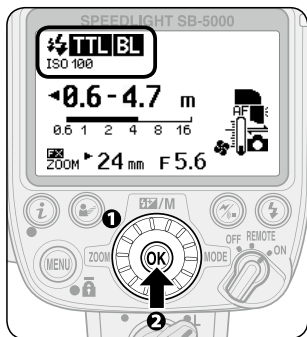
32. OK ボタン

- ・選択した設定を確定します。

設定と表示について

表示パネルのアイコンは各種設定状態を表わし、発光モードや設定状態によって異なります。

・各種設定は、基本的に次の方法で変更できます。



① ロータリーマルチセレクターを操作して、変更したい項目を反転表示させ、設定を選択する

② OK ボタンを押して、設定を確定する

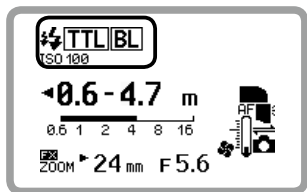
- ・ 確定した項目が通常表示に戻ります。
- ・ 設定を変更しない場合も、**OK** ボタンを押して通常表示に戻ってください。
- ・ **OK** ボタンを押さない場合は、約8秒が経過すると設定が確定します。

B

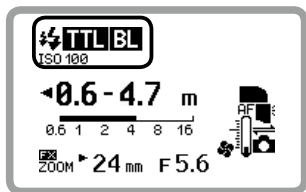
操作方法

項目の表示について

通常表示



反転表示



項目が選択されている状態です。設定の変更が可能になります。設定を変更して確定すると、左の通常表示に戻ります。

■ ロータリーマルチセレクターについて



ロータリーマルチセレクターは、上下左右を押しったり回して操作できます。

この活用ガイドでは、ロータリーマルチセレクターの上、下、左、右を、▲、▼、◀、▶と表記しています。

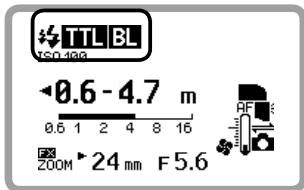


B

操作方法

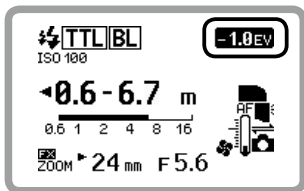
■ 項目の反転表示

[MODE] 発光モード



ロータリーマルチセレクター▶を押すと、発光モード表示が反転します。(□B-18)

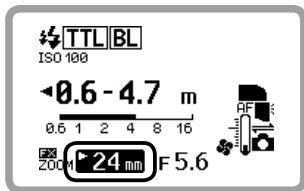
[M] 調光補正值 / マニュアル発光量



ロータリーマルチセレクター▲を押すと、調光補正值表示が反転します。(□E-18)

マニュアル発光では、発光量表示が反転します。(□C-4)

[ZOOM] 照射角



ロータリーマルチセレクター◀を押すと、照射角表示が反転します。(□E-19)

- カメラに接続した場合、照射角はレンズの焦点距離に合わせて自動的に設定されます。手動で設定する場合に使用してください。リモートフラッシュとして使用する場合は、照射角を手動で設定してください。

B

操作方法

■ 項目の選択

ロータリーマルチセレクター▲▼◀▶を押して、設定したい項目を反転表示させます。

iメニューやメニュー設定では、ロータリーマルチセレクターを回しても項目の選択が可能です。(□B-9、B-19)

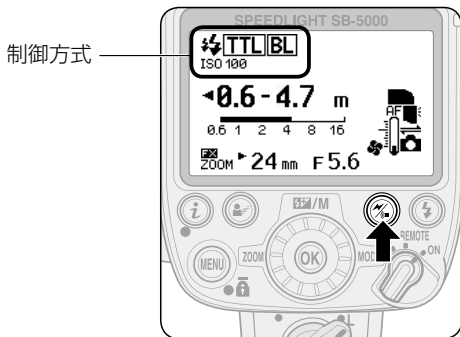
■ 設定の変更

ロータリーマルチセレクターを回して、反転表示している項目の設定を変更します。

- 数値を設定する項目では、右に回すと値が増え、左に回すと値が減ります。

■ 制御方式の表示について

ワイヤレス設定ボタンを押すと、制御方式を切り換えることができます。



B




操作方法

■ 電源スイッチが [ON] のとき




1灯モード

TTL BL	i-TTL-BL 調光
TTL	スタンダードi-TTL 調光
絞 絞 A	絞り連動外部自動調光 (モニター発光あり)
絞 A	絞り連動外部自動調光 (モニター発光なし)
絞 A	外部自動調光 (モニター発光あり)
A	外部自動調光 (モニター発光なし)
GN	距離優先マニュアル発光
M	マニュアル発光
RPT	リピーティング発光




光制御マスターモード

	グループ発光
	クイックワイヤレスコントロール
	増灯リピーティング発光

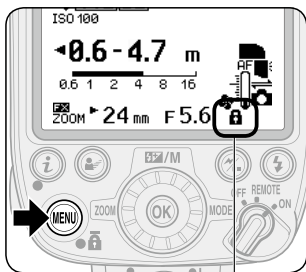
電波制御マスターモード

	グループ発光
	クイックワイヤレスコントロール
	増灯リピーティング発光

■ 電源スイッチが [REMOTE] のとき

	光制御リモートモード
	ダイレクトリモートモード
	電波制御リモートモード

🔑 操作ボタンをロックするには (キーロック)



キーロックアイコン

MENU ボタンを約2秒間押し、キーロックアイコンを表示させると、操作ボタンがロックされます。

- 電源スイッチ、テスト発光ボタン、モデリング発光ボタンはロックされません。
- 再度、**MENU** ボタンを約2秒間押し、キーロックを解除できます。

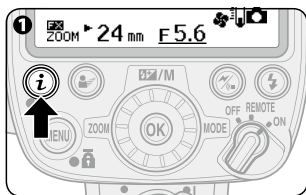
iメニューについて

iメニューでは、設定したい項目が選択できます。

iメニューの使い方

B

操作方法



① **i**ボタンを押して、iメニューを表示させる

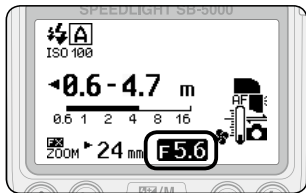
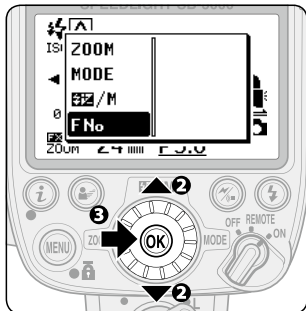
② ロータリーマルチセレクター▲▼を押して、設定したい項目を反転表示させる

・ロータリーマルチセレクターを回しても選択できます。

③ OKボタンを押して、選択を確定する

・ロータリーマルチセレクター▶を押しても確定できます。

・iメニューが終了し、選択した項目が反転表示されます。ロータリーマルチセレクターを操作して設定を変更してください。(□B-5)



■ iメニューのアイコンと割当てられた機能

【ワイヤレス増灯撮影時】

ZOOM	照射角設定
MODE	発光モード設定
	調光補正值設定/ マニュアル発光量設定
F No	絞り値設定 (外部自動調光時)
m	距離設定 (距離優先マニュアル発光時)
Times	発光回数設定 (リピート発光時)
Hz	周波数設定 (リピート発光時)
	露光不足量の表示 (i-TTL 調光 光量不足時)
ZOOM	照射角自動設定への移行

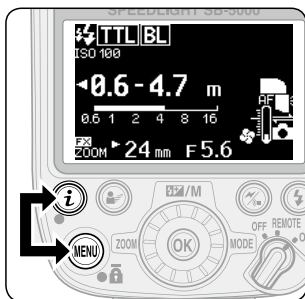
CHANNEL	チャンネル設定
MASTER	マスターフラッシュ設定
GR:	リモートフラッシュの 各グループ設定 (マスターモード時)
	増灯リピート発光時の 発光・非発光設定
	A・Bグループ設定(クイック ワイヤレスコントロール)
GR:C	Cグループ設定(クイック ワイヤレスコントロール)
GROUP	リモートフラッシュの 各グループ設定 (リモートモード時)

B

操作方法

- 表示される設定項目は、使用中の機能や発光モード、組み合わせるカメラによって異なります。

🔪 設定を初期設定に戻すには (ツーボタンリセット)



各種の設定(メニュー設定を除く)を初期設定に戻すには、**MENU** ボタンと **i** ボタンを同時に約2秒間押ししてください。

- 電源スイッチの指標を合わせている機能に関する設定のみ、リセットされます。
- 表示パネルが反転表示後、通常表示に戻れば完了です。

ユニファイドフラッシュコントロールについて

ユニファイドフラッシュコントロールは、SB-5000を対応カメラに装着しているとき、フラッシュ発光に関する各種設定を共有できる機能です。カメラ側からSB-5000の設定ができるとともに、SB-5000で設定した内容もカメラ側に反映されます。設定できる項目は次の通りです。

B

操作方法

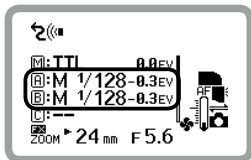
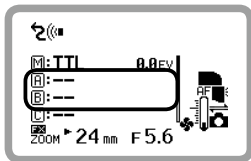
■ 1灯モード

- ・発光モード
- ・調光補正值 / マニュアル発光量 (マニュアル発光時)
- ・距離 (距離優先マニュアル発光時)
- ・発光回数と周波数 (リピーティング発光時)

■ マスターモード

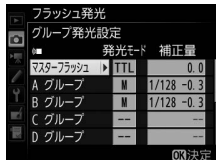
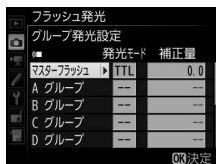
- ・ワイヤレス設定
- ・増灯発光モード
- ・各スピードライトの発光設定
- ・チャンネル (光制御時)

SB-5000



SB-5000でリモートフラッシュの発光設定を変更

カメラ



変更内容がカメラ側にも反映される

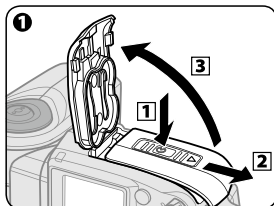
設定を共有

- ・カメラに未装着のSB-5000で設定を行い、カメラに装着した場合は、SB-5000で設定した内容がカメラ側に反映されます。

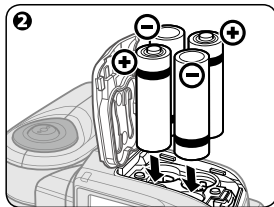
撮影の基本ステップ

SB-5000とニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応カメラとの組み合わせで、i-TTL調光を使った撮影の基本的なステップを説明しています。

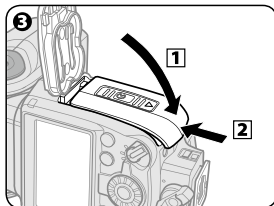
ステップ1 電池を入れる



- ① ①電池ぶたロック解除ボタンを押しながら、②電池ぶたをスライドさせて③開ける



- ② +-表示の向きに電池を入れる



- ③ ①電池ぶたを押さえながら、②スライドさせて閉じる

B

操作方法

■ 使用できる電池と電池交換の目安

次の同じ種類の単3形電池4本を使います。

電源ONや発光後、レディーライト点灯までの時間が表のように遅くなったら、早めに新しい電池に交換または充電してください。交換の際は、4本とも同じ銘柄の新品電池または充電済みの電池を入れてください。

電池の種類	レディーライト点灯までの時間
1.5V アルカリ単3形電池	20秒以上
1.2V ニッケル水素単3形充電電池	10秒以上

- ・使用電池別の最短発光間隔、発光回数などについては「仕様」(□H-19)をご覧ください。
- ・アルカリ電池はメーカーにより性能が大きく異なることがあります。
- ・1.5V マンガン単3形電池のご使用はおすすめしません。
- ・外部電源(別売)を使うと電源供給が安定し、発光回数を増やしたり発光間隔を短縮できます。(□H-14)

✓ 電池についてのご注意

- ・「安全上のご注意」の「危険」、「警告」、「注意」(□A-14～A-19)の注意事項をお守りください。
- ・「電池についてのご注意」(□H-8)をよくお読みの上、内容を十分に理解してから正しくお使いください。

電池容量不足画面

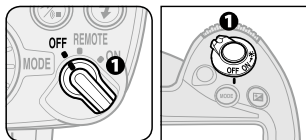


電池容量が不足すると、表示パネルが左の画面に変わり、すべての動作が停止します。新しい電池に交換または充電してください。

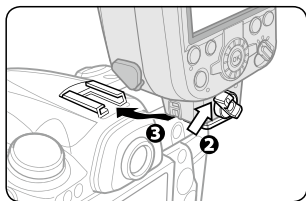
B

操作方法

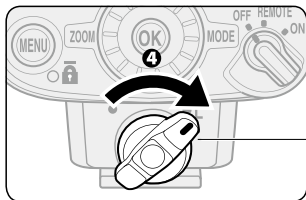
ステップ2 カメラに取り付ける



- ① SB-5000 およびカメラの電源OFFを確認する



- ② ロックレバーが左（白丸）にあることを確認する
③ 取付け脚をアクセサリーシューに差し込み、奥まで押し込む



- ④ ロックレバーを右にLの位置まで回す

☑ ロックの確認

ロックレバーが止まり、ロック機構の指標が合っていることを確認してください。

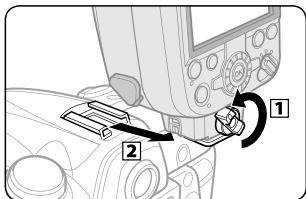
▼内蔵フラッシュの自動ポップアップ機能についてのご注意

内蔵フラッシュの自動ポップアップ機能を搭載したカメラにSB-5000を取り付ける場合は、SB-5000の電源を必ずONにしてご使用ください。SB-5000の電源をOFFにして使用すると、カメラの内蔵フラッシュが自動ポップアップした際にSB-5000と接触しますのでご注意ください。SB-5000を発光させないときは、カメラから取り外しておくことをおすすめします。

B

操作方法

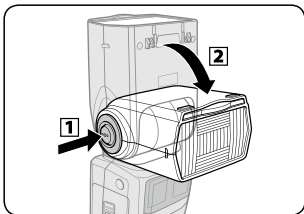
■カメラからの取外し方



SB-5000およびカメラの電源をOFFにしてから、**①**ロックレバーを左に90°回し、**②**取付け脚をゆっくり引き抜く

- ・取付け脚が引き抜けない場合は、もう一度、ロックレバーを左にいっぱいまで回してからゆっくり引き抜いてください。
- ・無理に引き抜かないでください。

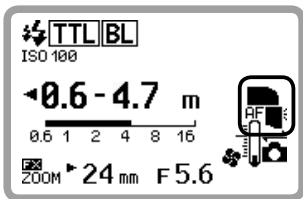
ステップ3 フラッシュヘッドを設定する



①フラッシュヘッドロック解除ボタンを押しながら、②フラッシュヘッドを正面に設定する

・フラッシュヘッドは正面および上方向90°でロックされます。

フラッシュヘッドの状態表示

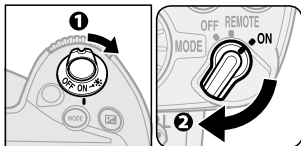


- 正面に設定されている。
- フラッシュヘッドが正面以外に設定されている。(上方、左右バウンス表示)
- フラッシュヘッドが下方向に設定されている。(下方バウンス表示)

B

操作方法

ステップ4 電源をONにする



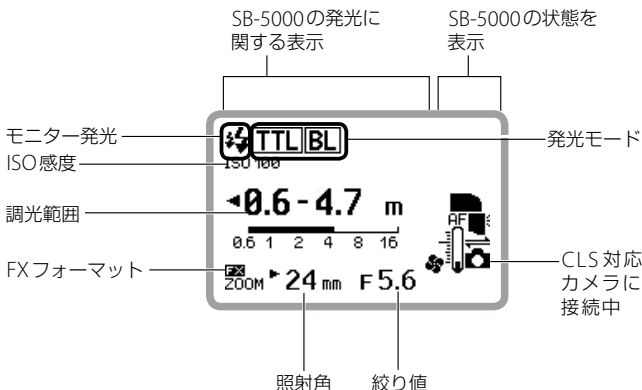
- ① カメラの電源をONにする
- ② SB-5000の電源スイッチの指標を [ON] に合わせる

B

操作方法

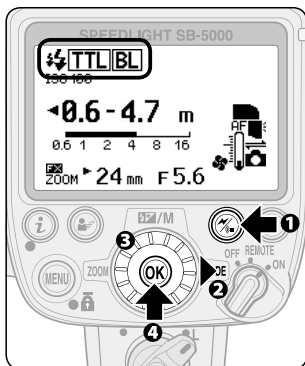
画面表示例

- 次の画面は、i-TTL 調光、FXフォーマット、スタンダード配光、ISO感度 100、照射角 24mm、絞り値 F5.6 の場合の表示例です。
- 表示は、SB-5000 の設定や使用するカメラ、レンズによって異なります。



- (モニター発光) は、CLS対応のカメラと通信しているときに表示されます。
- ISO感度、調光範囲、FX/DXフォーマット、照射角、絞り値は、カメラと通信しているときにカメラ側の情報が表示されます。
- 照射角を手動で設定しているときは、照射角表示に **M** が表示されます。
- カメラに装着していないと表示されない発光モードがあります。

ステップ5 発光モードを設定し、撮影する



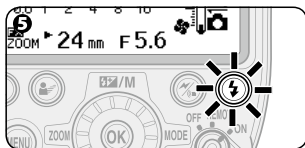
- ① ワイヤレス設定ボタンを押して、1灯モードに設定する
- ② ロータリーマルチセレクター▶を押して、発光モード表示を反転させる
- ③ ロータリーマルチセレクターを操作して、**TTL BL**を表示させる (□B-5)
- ④ OKボタンを押す

発光モードの切り換え方

ロータリーマルチセレクター▶▶を押すか右に回すと、発光モードが次のように切り換わります。



- ・ロータリーマルチセレクター▼◀を押すか左に回すと、反対方向に切り換わります。
- ・使用できない発光モードは表示されません。
- ・発光モードは、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)



- ⑤ SB-5000またはカメラのファインダー内のレディーライトの点灯を確認して、撮影する

- ・必要に応じて、調光補正値を設定してください。(□E-18)



B

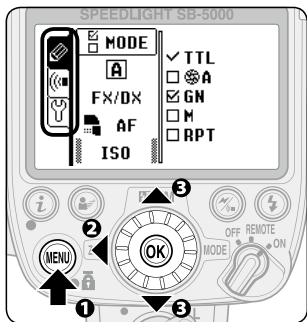
操作方法

メニュー設定について

表示パネルで確認しながら、各種の設定ができます。

- 表示されるアイコンは、組み合わせるカメラやSB-5000の設定によって異なります。
- 使用中の機能によっては、設定内容が反映されないメニューがあります（リモートフラッシュ時の「発光モードの限定」など）。その場合には、メニューの左右に網目の印がつきます。

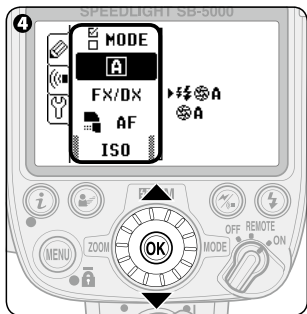
メニューの設定方法



① **MENU** ボタンを押して、メニュー画面にする

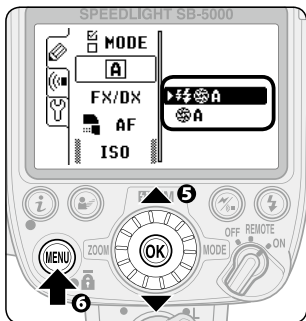
② ロータリーマルチセレクター◀を押して、メニューのタブを反転表示させる

③ ロータリーマルチセレクター▲▼を押して、設定したいメニューのタブを反転表示させ、**OK** ボタンを押す



④ ロータリーマルチセレクター▲▼を押して、設定したいメニュー項目を反転表示させ、**OK** ボタンを押す

- メニューのタブを選択しなおすときは、ロータリーマルチセレクター◀を押して戻ります。

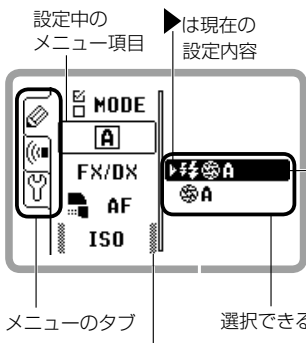


⑤ロータリーマルチセレクター
▲▼を押して設定内容を選び、
OKボタンを押す

- ・設定したいメニュー項目を選択しなおすときは、ロータリーマルチセレクター◀を押して戻ります。

⑥MENUボタンを押して、
メニュー設定を終了する

- ・通常の見出しに戻ります。



- ・ロータリーマルチセレクターを回しても選択できます。
- ・ロータリーマルチセレクター▶を押しても確定できます。









設定が反映されないメニューには、
左右に網目の印がつかます。

メニューの詳細

・太字は初期設定です。

カスタムメニュー

撮影に関する設定です。

	<p>発光モードの限定 (□B-18、C-1)</p> <p>1 灯時に使用する発光モードを選択します。 i-TTL 調光は必ず選択された状態となります。設定中の発光モードは外せません。</p>
<p>✓ TTL ☑  A ☑ GN ☑ M ☑ RPT</p>	<p>i-TTL 調光 絞り連動外部自動調光 距離優先マニュアル発光 マニュアル発光 リピーティング発光</p> <p>□オタリーマルチセレクター▶を押して、チェックボックスの☑を切り換えます。</p>
	<p>外部自動調光の設定 (□C-7、C-10)</p>
<p>▶  A  A</p>	<p>絞り連動外部自動調光 (モニター発光あり) 絞り連動外部自動調光 (モニター発光なし)</p>
	<p>FX/DX フォーマットの設定</p> <p>照射角の手動設定時のFX/DX フォーマットを設定します。</p>
<p>▶  FX↔DX FX DX</p>	<p>FX↔DX : カメラに合わせて自動切り換え</p> <p>FX : FX フォーマット (36 × 24) DX : DX フォーマット (24 × 16)</p>
	<p>AF 補助光 / 本発光禁止の設定 (□E-20)</p>
<p>▶ ON OFF AF ONLY</p>	<p>ON : AF 補助光を照射 OFF : AF 補助光の照射禁止 AF ONLY : スピードライトの発光禁止 (AF 補助光を照射)</p>

ISO	ISO感度の手動設定 ISO感度の情報がカメラ側から伝達されない場合（CLS非対応一眼レフカメラ使用時）に、手動で設定します。ISO3～8000の間で選択できます。
▲ 80 ▶ 100 125 160 200 ▼	100 : ISO感度 100
RESET	カスタムメニューリセットの設定
YES NO	YES : 初期設定にリセット NO : リセットしない

(((無線項目メニュー

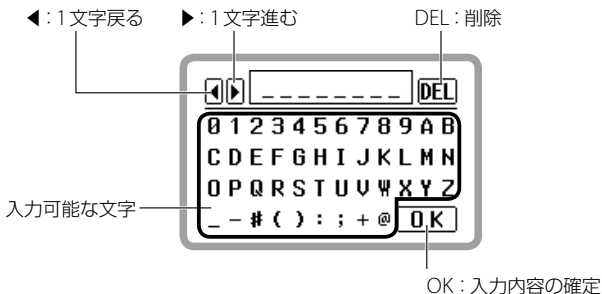
電波制御ワイヤレス増灯撮影に関する設定です。

CHANNEL	チャンネル設定 (D-9)
CH5 CH10 ▶ CH15	CH5 CH10 CH15
LINK MODE	リンクモード設定 (D-10)
PAIRING PIN	PAIRING : ペアリング PIN : PINコード
PAIR	ペアリングの実行 (D-11)
EXECUTE	EXECUTE : 実行
PIN	PINコード設定 (D-13) 設定中の4桁のPINコードを表示します。ロータリーマルチセレクターで入力も可能です。
0 0 0 0	0000

NAME	リモートフラッシュネーム設定 (□D-8) リモートフラッシュ時に設定されている名称を表示します。 最大8文字まで入力が可能です。
SB-5000	SB-5000

リモートフラッシュネームの入力方法

ロータリーマルチセレクターを操作して入力したい文字やキーアイコンを選び、**OK** ボタンを押します。






🔑 セットアップメニュー

SB-5000 を使いやすくするための基本設定です。

	配光タイプの設定 (□E-2)
CW STD EVEN	CW : 中央部重点配光 STD : スタンダード配光 EVEN : 均質配光
	i-TTL 調光時のテスト発光量の設定 (□E-22)
M1/128 M1/32 M1/1	M 1/128 : 約 1/128 の光量 M 1/32 : 約 1/32 の光量 M 1/1 : フル発光

	オートパワーズーム禁止の設定 (☑E-20)
ON 	ON ：オートパワーズーム禁止（手動設定専用） OFF ：オートパワーズーム（手動設定不可）
	バウンス時のズーム位置切り換え (☑E-5)
TELE WIDE 	TELE ：テレ側で固定 WIDE ：ワイド側で固定 OFF
	クーリングシステム (☑E-25) クーリングシステムの自動制御を設定します。連続発光を行う場合は、ONに設定してください。
 ON  OFF	ON ：自動制御あり OFF ：自動制御なし
	表示パネルのコントラストの設定 (☑H-9) 設定できるコントラストは9段階で、グラフで表示します。
	9段階の5段階目
	リモートモード時のレディーライトとAF補助光の設定 (☑D-37) リモートモード時の消費電力節減のため、レディーライトとAF補助光の点灯/点滅/消灯を設定します。
ALL  REAR  FRONT	ALL ：後側のレディーライトが点灯、前側のAF補助光（リモートモード時）が点滅 REAR ：後側のレディーライトのみ点灯 FRONT ：前側のAF補助光（リモートモード時）のみ点滅
	サウンドモニターの設定 (☑D-37)
 ON  OFF	ON OFF

	スタンバイ機能の設定 (□E-24) 自動的に待機（スタンバイ）状態になるまでの時間を設定します。
▶AUTO 40 80 160 300 --	AUTO：カメラの半押しタイマーと連動 40：40秒 80：80秒 160：160秒 300：300秒 --：スタンバイ機能解除
	表示パネルバックライトの点灯/消灯設定 (□H-9)
▶ON OFF	ON：点灯 OFF：消灯
m/ft	距離表示単位の設定
▶m ft	m：メートル ft：フィート
VER.	ファームウェアバージョン表示 (□H-10)
14.001	14.001
RESET 	セットアップメニューリセットの設定 セットアップメニューの初期設定へのリセットを実行します。
YES NO	YES NO

発光モード

SB-5000で使用できる発光モードについて説明しています。

- 発光モードは、ロータリーマルチセレクターを操作して切り換えます。(□B-18)
- 発光モードは、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)

ISO感度、絞り値、焦点距離の自動設定

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) 対応カメラ、CPUレンズとの組み合わせ時は、ISO感度、絞り値、焦点距離などのカメラやレンズの情報はSB-5000に自動的に設定されます。

- ISO感度連動範囲の詳細は、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。
- 調光補正值はSB-5000で設定できます。ロータリーマルチセレクター▲を押して調光補正值表示を反転させてから、ロータリーマルチセレクターを操作して設定を行ってください。

i-TTL調光

モニター発光を行って被写体からの反射光をカメラで測光して、カメラがスピードライトの発光量を適正に調節する調光方式です。

- 一般的な撮影にはi-TTL調光の使用をおすすめします。
- i-TTL調光での撮影手順は、「撮影の基本ステップ」をご覧ください。(□B-12)
- i-TTL調光はBL(バランス)調光またはスタンダード調光が選択できます。
- i-TTL調光に非対応のカメラをお使いの場合、絞り連動外部自動調光か外部自動調光を使用してください。

i-TTL-BL調光

被写体と背景光のバランスを考慮して発光量を制御する、バランス調光を行います。**TTL|BL**が表示されます。

i-TTL-BL調光は、カメラに装着しているときのみ選択可能です。

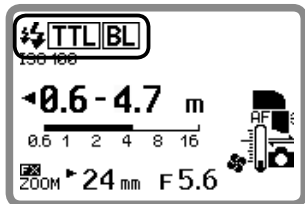
スタンダードi-TTL調光

背景光を考慮せず、主要被写体が基準露光量になるように発光量を制御します。主要な被写体を強調した撮影に最適です。**TTL**が表示されます。

カメラの測光モードとi-TTL調光について

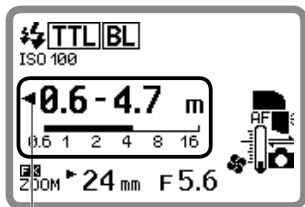
i-TTL-BL調光時にカメラの測光モードをスポット測光に切り換えると、自動的にスタンダードi-TTL調光に切り換わります。

i-TTL調光時の表示例



- : モニター発光を行います。
- TTL** : i-TTL調光を行います。
- BL** : バランス調光を行います。

i-TTL調光時の調光範囲

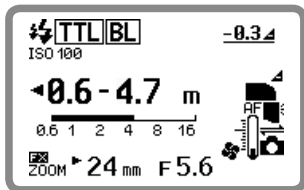
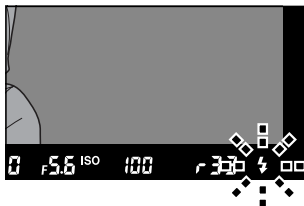
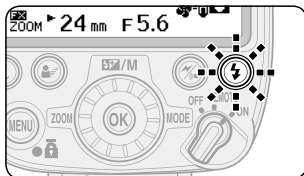


調光範囲は数字とインジケータで表示されます。

- ・スピードライトから被写体までの距離は、調光範囲内に設定してください。
- ・調光範囲はFX/DXフォーマット、配光タイプ、ISO感度、照射角、絞り値によって異なります。

近距離側の調光限界

☑ 光量不足警告が出たら



- 発光直後にカメラのファインダー内およびSB-5000のレディーライトが約3秒間点滅した場合は、撮影に必要な光量が不足している可能性があります。
- スピードライトから被写体までの距離を短くする、絞り値を開放側（小さい方の数値）にする、ISO感度を上げるなどして、撮影し直してください。
- TTL調光アンダー表示と、光量不足量の目安となるアンダー量が、約3秒間表示されます（表示範囲：-0.3EV~-3.0EV）。
- TTL調光アンダー量表示は、消灯後も **i**メニューで確認できます。（□B-9）

C

発光モード

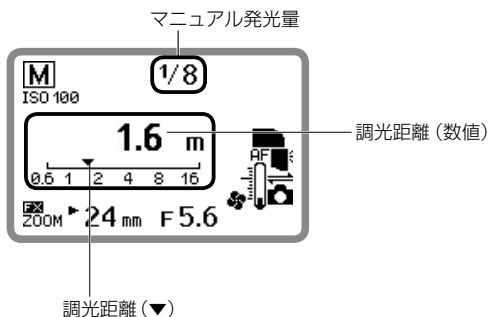
マニュアル発光

任意の絞り値と発光量の組み合わせで、スピードライトから被写体までの距離や露出を撮影者が設定できます。

- 発光量はM 1/1（フル発光）からM 1/256の微小発光まで、撮影意図に合わせて設定できます。
- マニュアル発光では、モニター発光、光量不足警告は行われません。

マニュアル発光時の表示例

発光モード



■ マニュアル発光の撮影手順



- ① ロータリーマルチセレクター▲を押して、発光量表示を反転させる
- ② ロータリーマルチセレクターを操作して発光量を設定し、OKボタンを押す (□B-5)
 - ・発光量は、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)
 - ・設定した発光量に見合う撮影距離が表示されます。
- ③ レディーライトの点灯を確認して、撮影する

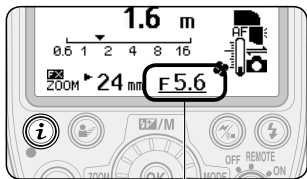
■ マニュアル発光時の発光量の設定方法

発光量表示が反転しているときにロータリーマルチセレクターを操作すると発光量が変わります。

- ・発光量は1/3段ずつ変化します。
- ・ロータリーマルチセレクターを左に回すか▼◀を押すと分母が大き(発光量が小さ)くなり、右に回すか▲▶を押すと分母が小さ(発光量が大き)くなります。
- ・お使いのカメラによっては、シャッタースピードを速くするとM 1/2以上の光量がM 1/2と同程度まで小さくなる場合があります。

レンズの絞り値情報がない場合

カメラからSB-5000にレンズの絞り値情報が伝達されない場合は、**i**メニューから絞り値の設定を行います。



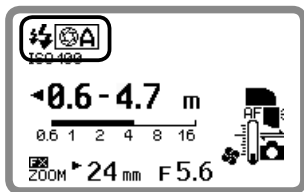
SB-5000で設定した絞り値はアンダーラインが表示されます。

絞り連動外部自動調光

スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、カメラから伝達されるISO感度・絞り値・露出補正值などの情報を加えて、スピードライトが発光量を制御します。

- ・カメラから絞り値情報が伝達されない場合は、自動的に外部自動調光に設定されます。

絞り連動外部自動調光時の表示例



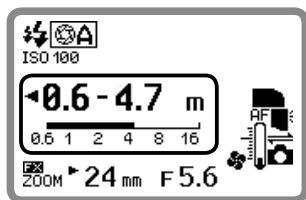
: モニター発光を行います。

: 絞り連動外部自動調光を行います。

モニター発光について

- ・モニター発光の有無は、カスタムメニューで選択できます。(□B-19)
- ・「モニター発光あり」に設定すると本発光直前にモニター発光を行い、本発光に必要な被写体情報を収集して発光を制御するので、「モニター発光なし」に比べて、より精度の高い発光制御となります。
- ・オートFPハイスピードシンクロ撮影(□E-26)、FVロック撮影(□E-27)をする場合は、「モニター発光あり」に設定してください。

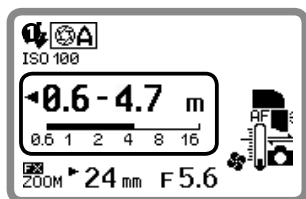
絞り連動外部自動調光時の調光範囲



調光範囲は数字とインジケーターで表示されます。

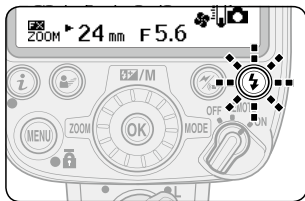
- スピードライトから被写体までの距離は、調光範囲内に設定してください。
- 調光範囲はFX/DXフォーマット、配光タイプ、ISO感度、照射角、絞り値によって異なります。

絞り連動外部自動調光の撮影手順



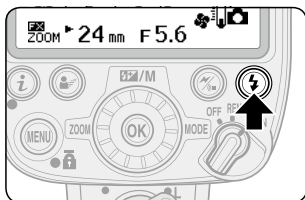
- ① スピードライトから被写体までの距離が調光範囲内にあることを確認する
 - ② レディーライトの点灯を確認して、撮影する
- 必要に応じて、調光補正値を設定してください。(□E-18)

☑ 光量不足警告が出たら



- 発光直後にカメラのファインダー内およびSB-5000のレディーライトが約3秒間点滅した場合は、撮影に必要な光量が不足している可能性があります。
- スピードライトから被写体までの距離を短くする、絞り値を開放側（小さい方の数値）にする、ISO感度を上げるなどして、撮影し直してください。

✍ 撮影前に光量不足を確認するには

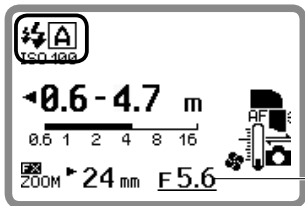


- 実際の撮影と同様にカメラとSB-5000を設定し、テスト発光します。
- 発光直後にレディーライトが点滅した場合は、撮影に必要な光量が不足している可能性があります。

外部自動調光

スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。

外部自動調光時の表示例



☀️：モニター発光を行います。

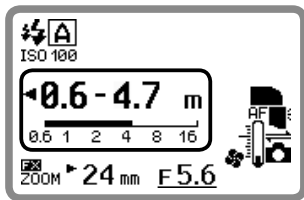
Ⓐ：外部自動調光を行います。

絞り値。SB-5000で設定した場合は、アンダーラインが表示されます。

☑️ モニター発光について

- ・モニター発光の有無は、カスタムメニューで選択できます。(□B-19)
- ・「モニター発光あり」に設定すると本発光直前にモニター発光を行い、本発光に必要な被写体情報を収集して発光を制御するので、「モニター発光なし」に比べて、より精度の高い発光制御となります。
- ・オートFPハイスピードシンクロ撮影(□E-26)、FVロック撮影(□E-27)をする場合は、「モニター発光あり」に設定してください。

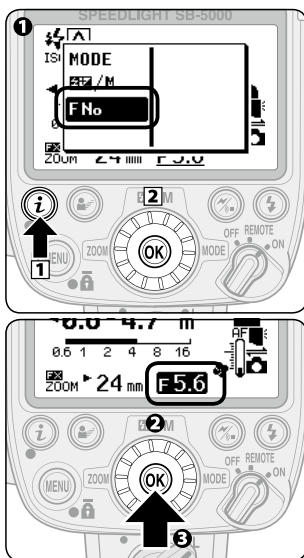
外部自動調光時の調光範囲



調光範囲は数字とインジケーターで表示されます。

- スピードライトから被写体までの距離は、調光範囲内に設定してください。
- 調光範囲はFX/DXフォーマット、配光タイプ、ISO感度、照射角、絞り値によって異なります。

外部自動調光の撮影手順



① *i*メニューで [F No] を選ぶ (□B-9)

- ① *i* ボタンを押して *i* メニューを表示させ、② ロータリーマルチセクターを操作して [F No] を選んでください。

② 調光範囲を確認しながら、ロータリーマルチセクターを操作して絞り値を設定する (□B-5)

- スピードライトから被写体までの距離が調光範囲内にあれば、適切な露光量が得られます。

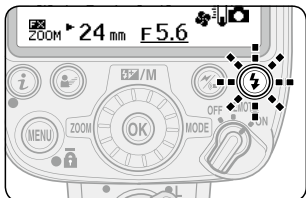
③ OK ボタンを押す

④ SB-5000 に設定した絞り値を、レンズまたはカメラに設定する

⑤ レディーライトの点灯を確認して、撮影する

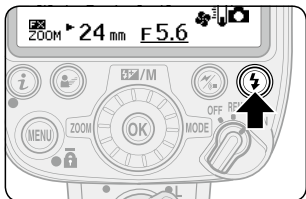
- 必要に応じて、調光補正值を設定してください。(□E-18)

✓ 光量不足警告が出たら



- ・発光直後にカメラのファインダー内およびSB-5000のレディーライトが約3秒間点滅した場合は、撮影に必要な光量が不足している可能性があります。
- ・スピードライトから被写体までの距離を短くする、絞り値を開放側（小さい方の数値）にする、ISO感度を上げるなどして、撮影し直してください。

✓ 撮影前に光量不足を確認するには



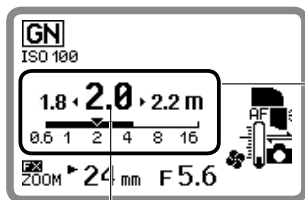
- 実際の撮影と同様にカメラとSB-5000を設定し、テスト発光します。
- ・発光直後にレディーライトが点滅した場合は、撮影に必要な光量が不足している可能性があります。

距離優先マニュアル発光

スピードライトから被写体までの距離を設定すれば、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定するマニュアル発光です。

距離優先マニュアル発光時の表示例

(スピードライトから被写体までの距離が2mの場合)



距離 (数値)

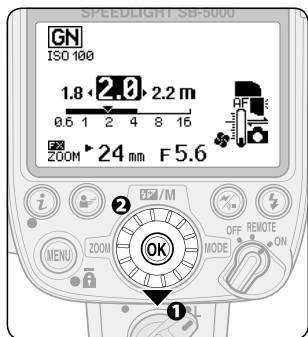
設定した距離 (▼) と調光範囲 (インジケーター)

設定した距離が調光範囲内にあれば、適切な露光量が得られます。フラッシュヘッドが正面か下方向以外に設定されていると、調光範囲 (インジケーター) は表示されません。また、フラッシュヘッドが下方向に設定されていると、距離表示にアンダーラインが表示されます。

距離優先マニュアル発光時の設定可能な撮影距離

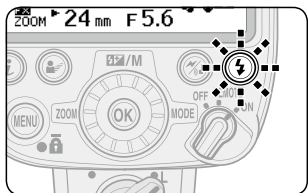
- 設定可能な距離は0.3m～20mです。
- スピードライトから被写体までの距離が距離表示と異なる場合は、近距離側の数値に設定してください。例えば、スピードライトから被写体までの距離が2.7mの場合は、2.5mに設定します。

距離優先マニュアル発光の撮影手順



- ① ロータリーマルチセクター▼を押して、距離表示を反転させる
- ② ロータリーマルチセクターを操作して距離を設定し、OKボタンを押す (□B-5)
 - ・設定可能な距離は0.3m～20mで、ISO感度によって異なります。
 - ・距離は、iメニューからも設定できます。(□B-9)
- ③ レディーライトの点灯を確認して、撮影する
 - ・必要に応じて、調光補正値を設定してください。(□E-18)

✓ 光量不足警告が出たら



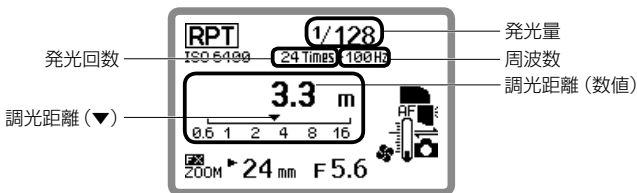
- ・発光直後にカメラのファインダー内およびSB-5000のレディーライトが約3秒間点滅した場合は、撮影に必要な光量が不足している可能性があります。
- ・絞り値を開放側（小さい方の数値）にする、ISO感度を上げるなどして、撮影し直してください。

リピート発光

シャッターが開いている間、スピードライトが連続発光して、1コマの画面内に被写体の連続した動きを写し込める発光モードです。

- リピート発光撮影時は、新品電池またはフル充電した電池を使用し、1回のリリースごとにスピードライトの充電時間を充分にとってください。
- シャッタースピードが遅くなりますので、三脚のご使用をおすすめします。
- リピート発光では、撮影後の光量不足警告は行われません。

リピート発光時の表示例



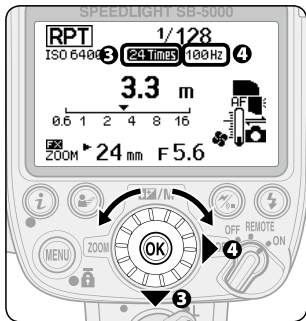
発光量、発光回数、周波数の決め方

- ・発光回数 (Times) は1コマで連続発光させる回数です。
- ・周波数 (Hz) は1秒間当たりの発光回数です。
- ・発光回数は最大の発光回数であり、露光中にだけ発光するため、シャッタースピードを速くしたり、周波数を低く設定すると、実際の発光回数は設定した回数以下になります。
- ・発光量と周波数の組み合わせにより、次のように最大連続発光回数が制限されています。表を参照して、各数値を設定してください。

最大連続発光回数

周波数	発光量									
	M 1/8	M 1/8 -0.3EV	M 1/8 -0.7EV	M 1/16	M 1/16 -0.3EV	M 1/16 -0.7EV	M 1/32	M 1/32 -0.3EV	M 1/32 -0.7EV	M 1/64~ M 1/256
1Hz	14	16	22	30	36	46	60	68	78	90
2Hz										
3Hz	12	14	18	30	36	46	60	68	78	90
4Hz	10	12	14	20	24	30	50	56	64	80
5Hz	8	10	12	20	24	30	40	44	52	70
6Hz	6	7	10	20	24	30	32	36	40	56
7Hz	6	7	10	20	24	26	28	32	36	44
8Hz	5	6	8	10	12	14	24	26	30	36
9Hz	5	6	8	10	12	14	22	24	28	32
10Hz	4	5	6	8	9	10	20	22	26	28
20Hz										
30Hz										
40Hz										
50Hz										
60Hz	4	5	6	8	9	10	12	14	18	24
70Hz										
80Hz										
90Hz										
100Hz										

リピーティング発光の撮影手順



① ロータリーマルチセレクター▲を押して、発光量表示を反転させる

② ロータリーマルチセレクターを操作して発光量を設定し、OKボタンを押す (□B-5)

・設定できる発光量は、1/8～1/256です。

③ ロータリーマルチセレクター▼を押して発光回数表示を反転させ、ロータリーマルチセレクターを回して発光回数を設定する

④ ロータリーマルチセレクター▶を押して周波数表示を反転させ、ロータリーマルチセレクターを回して周波数を設定し、OKボタンを押す

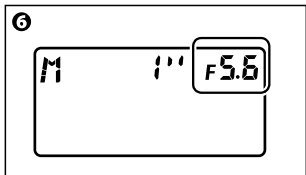
・発光回数、周波数は、ロータリーマルチセレクター▲▼を押しても選択できます。

・発光量、発光回数、周波数は、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)

⑤ 設定した発光量と焦点距離からガイドナンバーを求める

・ガイドナンバーの詳細は、「仕様」(□H-20)をご覧ください。

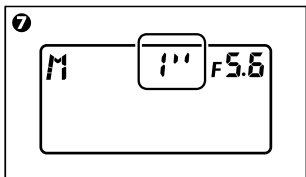
カメラの液晶表示



⑥ スピードライトから被写体までの距離とガイドナンバーから絞り値を求めて、カメラ側で絞り値を設定する

- ・絞り値は計算式で求めます。
(□H-5)
- ・SB-5000では絞り値を設定できません。
- ・設定した発光量と絞り値に見合う調光距離が表示されます。

カメラの液晶表示



⑦ シャッタースピードを設定する

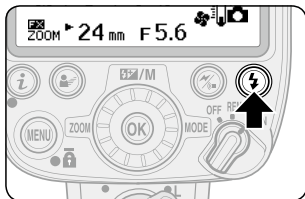
- ・次の計算式で求めた秒数よりも遅いシャッタースピードにしてください。

$$\text{発光回数} \div \text{周波数} = \text{秒数}$$

- ・例えば、発光回数を10回、周波数を5Hzに設定した場合、シャッタースピードは2秒より低速に設定してください。
- ・Bulb(バルブ)も設定できます。

⑧ レディーライトの点灯を確認して、撮影する

✎ 撮影前に発光状態を確認するには



実際の撮影と同様にカメラとSB-5000を設定し、テスト発光します。

- 設定した周波数と発光回数で発光します。

✓ リピーティング発光撮影時の露出の補正

- 手順の⑥で設定した絞り値で得られる調光距離は、最初の発光で適正露出となる値です。そのままリピーティング発光撮影すると、像が重なった部分の露出がややオーバーになります。
- 必要に応じてカメラ側の絞り値の設定でアンダー側に露出補正してください。

C

発光モード

ワイヤレス増灯撮影

ワイヤレス増灯撮影とは、ワイヤレスで複数のスピードライトを同時に発光させる撮影です。スピードライトの配置や発光設定を変えて、さまざまなライティングを楽しむことができます。

SB-5000は、電波制御と光制御のワイヤレス増灯撮影に対応しています。

- ・ワイヤレス増灯撮影では、カメラに装着したスピードライトをマスターフラッシュ（主灯）、それ以外をリモートフラッシュ（補助灯）といいます。

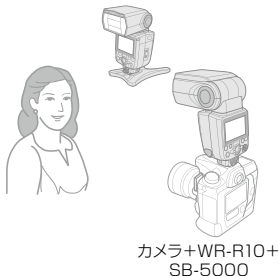
SB-5000を用いたワイヤレス増灯撮影の使用例

D

ワイヤレス増灯撮影

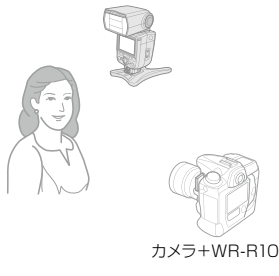
■ 電波制御

リモートフラッシュ (SB-5000)



カメラに装着したSB-5000で
発光設定を行う場合

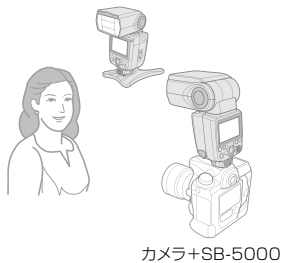
リモートフラッシュ (SB-5000)



カメラ側で発光設定を行う場合

■ 光制御

リモートフラッシュ



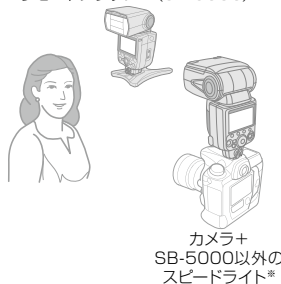
カメラに装着したSB-5000で
発光設定を行う場合

リモートフラッシュ (SB-5000)



カメラ側で発光設定を行う場合

リモートフラッシュ (SB-5000)



カメラに装着したSB-5000以外の
スピードライトで発光設定を行う
場合

リモートフラッシュ (SB-5000)



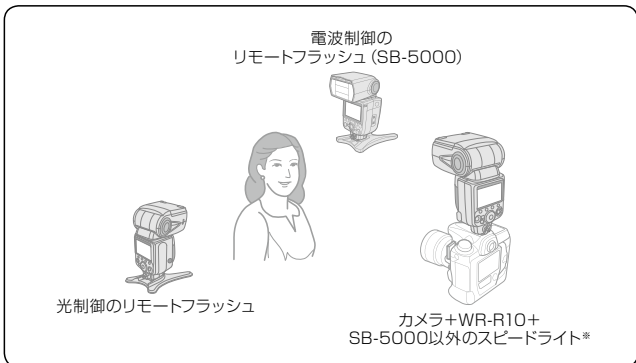
ダイレクトリモートを利用する場合

D

ワイヤレス増灯撮影

※マスターフラッシュ機能を搭載した機種 (SB-910など)

■ 光制御と電波制御を併用



※マスターフラッシュ機能を搭載した機種 (SB-910など)

マスターフラッシュとしての設定は□D-7をご覧ください。
リモートフラッシュとしての設定は□D-8をご覧ください。

SB-5000の電波制御ワイヤレス増灯撮影について

SB-5000では、電波制御を利用したアドバンスドワイヤレスライティング撮影が可能です。約30m範囲内での通信に対応し、ワイヤレスリモートセンサー窓をマスターフラッシュに向ける必要がないため、光制御のワイヤレス増灯撮影時よりも自由にリモートフラッシュが配置できます。また、リモートフラッシュは最大6グループ、18台まで設定することができ、より豊かで多彩な写真表現が楽しめます。日光の影響を受けないため、光制御では難しい明るい日中でのワイヤレス増灯撮影も可能です。

電波制御のワイヤレス増灯撮影を行うには、対応カメラ (D5、D500)、ワイヤレスリモートコントローラーWR-R10およびWR用変換アダプターWR-A10 (ともに別売) が必要です。詳細は各製品の使用説明書をご覧ください。

- ・ リモートフラッシュとして使用できるスピードライトは、SB-5000のみです。
- ・ リモートフラッシュのグループは、最大6つ (A、B、C、D、E、F) を設定できます。ただし、クイックワイヤレスコントロール時はA、B、Cの3グループのみになります。
- ・ リモートフラッシュの1グループは、1台または複数のスピードライトを設定できます。
- ・ マスターフラッシュおよびリモートフラッシュの各グループごとに、異なる調光補正値を設定できます。グループ発光時には、異なる発光モードを設定することも可能です。

SB-5000の光制御ワイヤレス増灯撮影について

SB-5000では、光による制御を利用して、「アドバンストワイヤレスライティング」と「ダイレクトリモート」(リモートモードのみ) の2つのワイヤレス増灯撮影ができます。

- ・ 一般的な増灯撮影にはアドバンストワイヤレスライティング撮影をおすすめします。
- ・ 動きが速い被写体の増灯撮影には、ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影が適しています。

■ アドバンストワイヤレスライティング

- アドバンストワイヤレスライティングに対応したスピードライト（SB-5000、SB-910、SB-700、SB-500など）がリモートフラッシュとして使用できます。
- リモートフラッシュのグループは、最大3つ（A、B、C）を設定できます。
- リモートフラッシュの1グループは、1台または複数のスピードライトを設定できます。
- マスターフラッシュおよびリモートフラッシュの各グループごとに、異なる調光補正値を設定できます。グループ発光時には、異なる発光モードを設定することも可能です。

■ ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影

- SB-910やSB-700などの「SU-4タイプのワイヤレス増灯撮影」と同じ機能です。
- マスターフラッシュ（主灯）は、カメラの内蔵フラッシュまたはカメラに装着したスピードライトが使えます。
- マスターフラッシュは必ずモニター発光を解除するか、モニター発光しない発光モードに設定してください。
- リモートフラッシュの発光モードは、リモートフラッシュ側で設定します。複数のリモートフラッシュを使用する場合、同じ発光モードに設定してください。

電波制御と光制御の併用も可能です。
詳しくはD-35をご覧ください。

SB-5000のワイヤレス増灯撮影機能

		マスターモード時	リモートモード時	
アドバンスドワイヤレスライティング撮影	発光モード	<ul style="list-style-type: none"> グループ発光 i-TTL 調光 絞り連動外部自動調光 マニュアル発光 発光なし クイックワイヤレスコントロール 増灯リピーティング発光 	マスターフラッシュで設定（グループ発光時には、グループごとに異なるモードを設定可能）	
	調光補正值	設定可能	マスターフラッシュで設定（グループごとに異なる値を設定可能）	
	電波	グループ	最大6グループ（A、B、C、D、E、F）	
		チャンネル*	3チャンネル（CH5、CH10、CH15）	
		リンクモード	ペアリング、PINコード	
光	グループ	最大3グループ（A、B、C）		
	チャンネル*	4チャンネル（1～4）		
ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影	発光モード	—	<ul style="list-style-type: none"> AUTO（オートモード） M（マニュアルモード） OFF（受光禁止） 	
	調光補正值	—	—	

※ 1つのチャンネルを選んで使用します。複数の人がアドバンスドワイヤレスライティング撮影を行っているときは、誤発光を防止するため、他の人とは異なるチャンネルに設定してください。

☑ マスターフラッシュの「発光なし」について

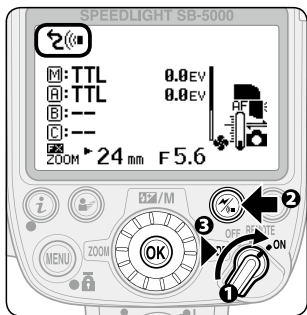
光制御時において、マスターフラッシュの発光モードを「発光なし」に設定して、リモートフラッシュのみで撮影する場合でも、マスターフラッシュは少光量発光します。この少光量発光による露出への影響はほとんどありませんが、ISO感度を高感度にして近距離撮影すると被写体露出に影響を与える場合があります。この場合は、影響がなくなるまでマスターフラッシュのフラッシュヘッドを上に向けて調節してください。

D

ワイヤレス増灯撮影

マスターフラッシュとしての設定

(SB-5000 をカメラに装着して各スピードライトの発光設定を行う場合)



- ① 電源スイッチの指標を [ON] に合わせる
- ② ワイヤレス設定ボタンを押して、電波制御または光制御マスターモードに設定する
- ③ マスターフラッシュのロータリーマルチセレクター▶を押して、使用したい発光モードを表示させる

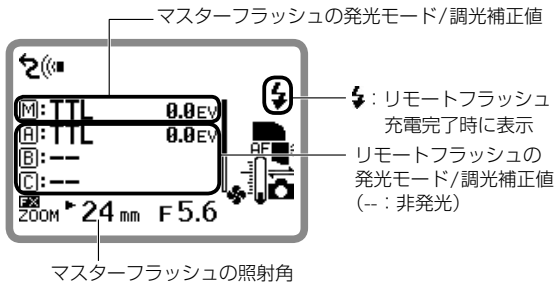
D

制御方式の表示

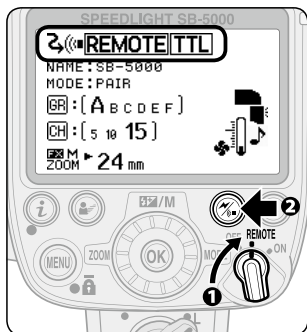
光制御	電波制御	発光モード
☞☞	☞☞	グループ発光
☞☞A:B	☞☞A:B	クイックワイヤレスコントロール
☞☞RPT	☞☞RPT	増灯リピーティング発光

ワイヤレス増灯撮影

マスターモード設定時の表示例（電波制御、グループ発光時）



リモートフラッシュとしての設定

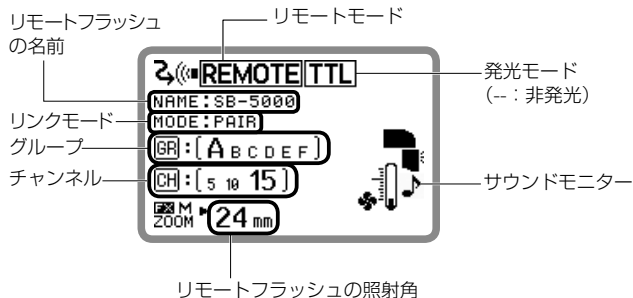


- ① 電源スイッチの指標を [REMOTE] に合わせる
- ② ワイヤレス設定ボタンを押して、電波制御、光制御、またはダイレクトリモートに設定する
 - ・電波制御時は、リモートフラッシュの名前とリンクモードが表示されます。

制御方式の表示

↻ [REMOTE]	光制御リモートモード
↻ [REMOTE] DIRECT	ダイレクトリモートモード
↻ [REMOTE]	電波制御リモートモード

リモートモード設定時の表示例（電波制御時）

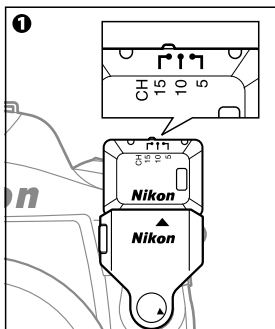


電波制御のリンク設定

電波制御時は、無線項目メニューでリンク設定を行ってください。

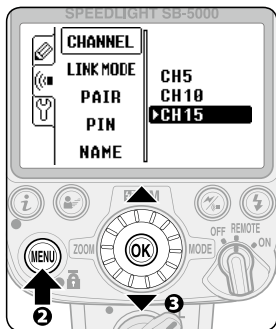
- SB-5000を電波制御リモートモードに設定してから、リンク設定を行ってください。(□D-8)

ステップ1 利用チャンネルを合わせる



① WR-R10のチャンネルを確認する

- WR-R10の設定については、WR-R10の使用説明書をご覧ください。



② 無線項目メニューから [CHANNEL] を選ぶ (□B-19)

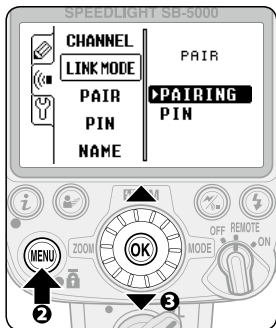
③ ロータリーマルチセレクター ▲▼で、WR-R10の設定と同じチャンネルを選び、OKボタンを押す

ステップ2 リンクモードを合わせる



① WR-R10を装着したカメラのリンクモードを確認する

- ・リンクモードの確認方法については、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。



② 無線項目メニューから [LINK MODE] を選ぶ (☐B-19)

③ ロータリーマルチセレクター ▲▼で、WR-R10を装着したカメラと同じリンクモードを選び、OKボタンを押す

📎 ペアリングについて

- ・通信を行う機器同士で、予めペアリング動作を実行させておきます。
- ・SB-5000とWR-R10のペアリング動作は、一度実行すれば、それ以降のペアリング実行動作は不要となります。
- ・SB-5000を複数台使用して撮影する場合、すべてのSB-5000とWR-R10でペアリング動作を実行してください。
- ・カメラに装着したWR-R10を変更する場合は、ペアリング動作をやり直してください。

D

ワイヤレス増灯撮影

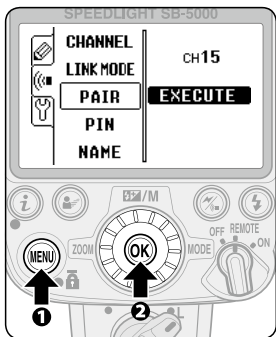
PINコードについて

- ・通信を行う機器で、それぞれ同一のPINコードを入力します。
- ・SB-5000を複数台使用して撮影する場合、すべてのSB-5000とWR-R10でそれぞれ同一のPINコードを設定してください。WR-R10のPINコードはカメラで設定します。
- ・SB-5000の台数を追加する場合、追加するSB-5000のPINコードを合わせれば容易に追加が可能となります。
- ・カメラに装着したWR-R10を変更した場合でも、PINコードの再設定は不要となります。

ステップ3 リンクを設定する

■ リンクモードが「ペアリング」のとき

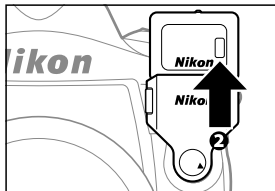
D
ワイヤレス増灯撮影



① 無線項目メニューから [PAIR] を選ぶ (☐B-19)

② [EXECUTE] が反転表示した状態でOKボタンを押すと同時に、カメラに装着したWR-R10のペアリングボタンを押す

- ・ペアリング中は実行画面が表示され、LINKライトが緑色に点滅します。





ペアリング完了画面



ペアリング失敗画面

③ ペアリングの完了を確認する

- ペアリングに成功すると完了画面が表示され、**LINK**ライトが緑色とオレンジ色に点滅します。
- ペアリングに失敗すると失敗画面が表示されます。チャンネルを確認のうえ、再度ペアリングを実行してください。

- WR-R10の設定については、WR-R10の使用説明書をご覧ください。

④ リンク成立を確認する

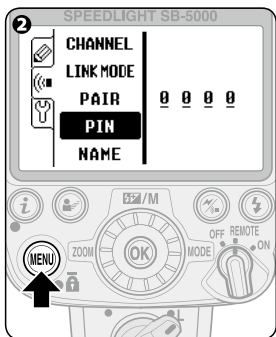
- リンクが成立すると、**LINK**ライトが緑色に点灯します。
- リンクが成立しない場合は、**LINK**ライトがオレンジ色に点滅します。

■ リンクモードが「PINコード」のとき

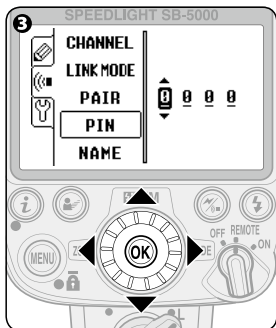


① WR-R10を装着したカメラで、任意のPINコード(数字4桁)を入力する

- ・ PINコードの入力方法については、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。



② 無線項目メニューから [PIN] を選ぶ (☐B-19)



③ ロータリーマルチセレクターを操作して、①で設定したPINコードを入力し、OKボタンを押す

- ロータリーマルチセレクター ▲▼を押して数字を選択します。
- ロータリーマルチセレクターを回しても数字の選択が可能です。
- ロータリーマルチセレクター ◀▶で桁を移動します。

④ リンク成立を確認する

- リンクが成立すると、LINKライトが緑色に点灯します。
- リンクが成立しない場合は、LINKライトがオレンジ色に点滅します。利用チャンネルとリンクモード、カメラ側のPINコードを確認のうえ、再度PINコードを入力してください。

D

ワイヤレス増灯撮影

アドバンストワイヤレスライティング撮影

SB-5000は、各スピードライトの発光を自由に設定できる「グループ発光」、簡単な設定で増灯撮影が楽しめる「クイックワイヤレスコントロール」、複数のスピードライトを使用した「増灯リピーティング発光」の3つのアドバンストワイヤレスライティングに対応しています。

グループ発光

グループ発光では、マスターフラッシュおよびリモートフラッシュの各グループごとに、異なる発光モードや調光補正值を設定できます。

- SB-5000をマスターフラッシュとして使用する場合、グループ発光には、ロータリーマルチセレクター▶を押して切り換えます。
- カメラ側で各スピードライトの発光設定を行うことも可能です。

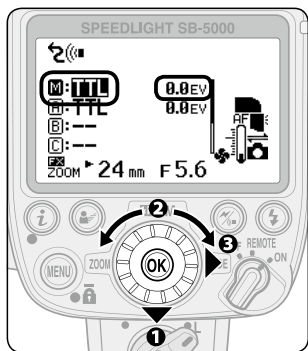
D

ワイヤレス増灯撮影

撮影の手順

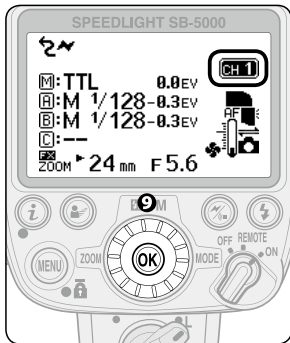
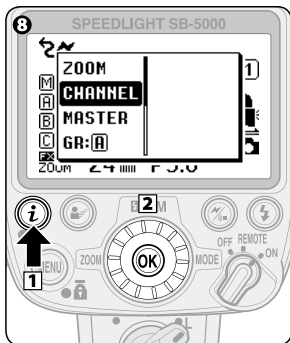
1. マスターフラッシュを設定する

(SB-5000で各スピードライトの発光設定を行う場合)



- ① マスターフラッシュのロータリーマルチセレクター▼を押して、**M**（マスターフラッシュ）を反転表示させる
- ② ロータリーマルチセレクターを回してマスターフラッシュの発光モードを選択する
- ③ ロータリーマルチセレクター▶を押して、調光補正值を反転表示させ、ロータリーマルチセレクターを回して調光補正值を設定する

- ④ ロータリーマルチセレクター◀を押して、発光モードを反転表示させてからOKボタンを押す
- ⑤ ロータリーマルチセレクター▼を押して、**Ⓐ**(Aグループ)を反転表示させる
- ⑥ 手順②、③、④に準じて、グループAの発光モード、調光補正值を設定する
- ⑦ グループAと同様に、他のグループを設定する



光制御時のみ

- ③ **i**メニューで**[CHANNEL]**を選ぶ (□B-9)

- ・ **1** **i**ボタンを押して**i**メニューを表示させ、**2** ロータリーマルチセレクターを操作して**[CHANNEL]**を選んでください。

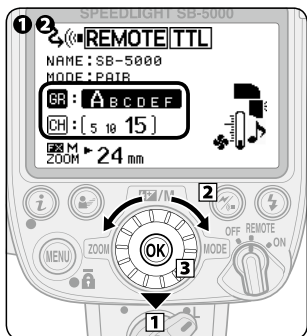
- ⑤ ロータリーマルチセレクターを操作して使用チャンネルを選択し、OKボタンを押す (□B-5)

- ・ 発光モードと調光補正值は、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)

D

ワイヤレス増灯撮影

2. リモートフラッシュを設定する



- 設定中のグループ、チャンネルが大きく表示されます。

- ① リモートフラッシュのロータリーマルチセレクター▼を押してグループ表示を反転させ、
- ② ロータリーマルチセレクターを回してグループを選択し、
- ③ OK ボタンを押す

- グループは、ロータリーマルチセレクター◀▶を押しても選択できません。

- ① ロータリーマルチセレクター▼を押してチャンネル表示を反転させ、
- ② ロータリーマルチセレクターを回して使用チャンネルを選択し、
- ③ OK ボタンを押す

- チャンネルは、ロータリーマルチセレクター◀▶を押しても選択できません。

電波制御時

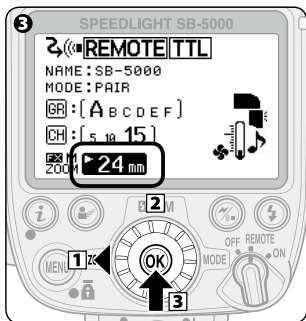
- 必ずワイヤレスリモートコントローラーWR-R10と同じチャンネルに設定してください。

光制御時

- 必ずマスターチャンネルと同じチャンネルに設定してください。

D

ワイヤレス増灯撮影

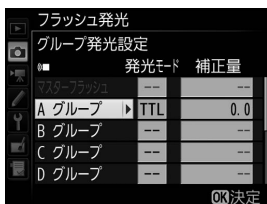


- ③ ①ロータリーマルチセレクター
 ◀を押して照射角表示を反転させ、
 ②ロータリーマルチセレクターを
 操作して照射角を選択し、③OK
 ボタンを押す (□B-5)

- ④各スピードライトの状態を確認
 して、撮影する

- グループ、チャンネル、照射角は、**i**メニューからも設定できます。
 (□B-9)

🔗 カメラ側で発光設定を行う場合



カメラメニューで設定を行ってください。

- 詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。

D

ワイヤレス増灯撮影

クイックワイヤレスコントロール

クイックワイヤレスコントロールでは、A、Bの2つのリモートフラッシュグループの光量比とCグループの発光を簡単に設定できます。

- SB-5000をマスターフラッシュとして使用する場合、クイックワイヤレスコントロールには、ロータリーマルチセレクター▶を押して切り換えます。
- クイックワイヤレスコントロール時は、マスターフラッシュは発光しません。
- カメラ側で各スピードライトの発光設定を行うことも可能です。

クイックワイヤレスコントロール時の表示例（電波制御時）

クイックワイヤレスコントロール

D

ワイヤレス増灯撮影

マスターモード

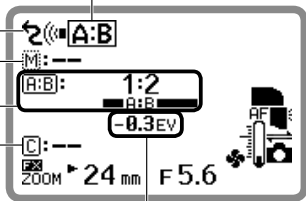
マスターフラッシュ

(--: 非発光)

A、Bグループの光量比

Cグループ

(--: 非発光)

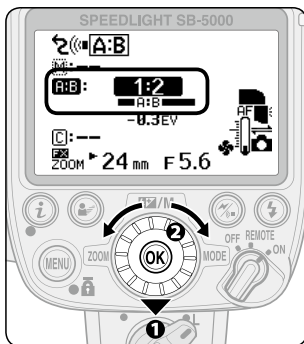


A、Bグループ両方の調光補正值

■ 撮影の手順

1. マスターフラッシュを設定する

(SB-5000で各スピードライトの発光設定を行う場合)



① マスターフラッシュのロータリーマルチセレクター▼を押して、A、Bグループの光量比表示を反転させる

② ロータリーマルチセレクターを回して光量比を選択し、OKボタンを押す

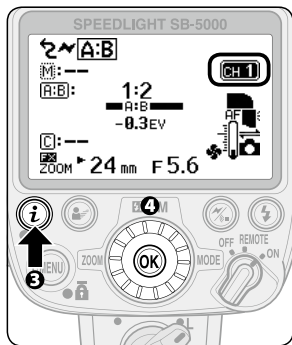
- 光量比は8:1～1:8に設定できます。

- [1:--] でAのみ、[--:1] でBのみを発光させることができます。

- 必要に応じて、調光補正值を設定してください。ロータリーマルチセレクター▼を押して調光補正值表示を反転させ、ロータリーマルチセレクターを回して補正值を選択した後、OKボタンを押します。

D

ワイヤレス増灯撮影



光制御時のみ

- ③ **i**メニューで [CHANNEL] を選ぶ (□B-9)
- ④ ロータリーマルチセレクターを操作して使用チャンネルを選択し、OK ボタンを押す (□B-5)

・光量比と調光補正值は、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)

D

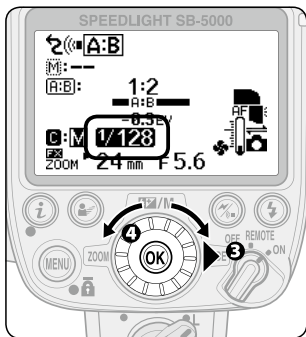
ワイヤレス増灯撮影

■ Cグループの設定方法

SB-5000のクイックワイヤレスコントロールでは、Cグループのリモートフラッシュについて、発光の有無とマニュアル光量を設定することができます。



- ① ロータリーマルチセレクター▼を押して、**C**を反転表示させる
- ② ロータリーマルチセレクターを回して、**M** (マニュアル発光) を選択する



- ③ ロータリーマルチセレクター▶を押して、発光量表示を反転させる
- ④ ロータリーマルチセレクターを回して発光量を設定し、OKボタンを押す

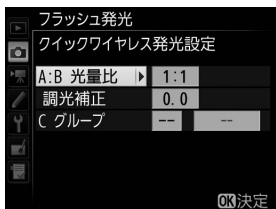
・Cグループの発光の有無は、iメニューからも設定できます。(□B-9)

2. リモートフラッシュを設定する

リモートフラッシュのグループ、チャンネル、照射角を設定する

- ・設定方法は□D-17を参照してください。
- ・各スピードライトの状態を確認して、撮影してください。

カメラ側で発光設定を行う場合



カメラメニューで設定を行ってください。

- ・詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。

増灯リピーティング発光

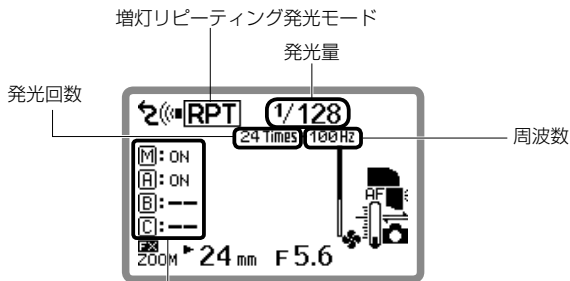
アドバンストワイヤレスライティング撮影では、増灯リピーティング発光撮影ができます。

- SB-5000をマスターフラッシュとして使用する場合、増灯リピーティング発光モードには、ロータリーマルチセレクター▶を押して切り換えます。
- カメラ側で各スピードライトの発光設定を行うことも可能です。

増灯リピーティング発光時の表示例（電波制御時）

D

ワイヤレス増灯撮影



マスターフラッシュ、A、B、C、D、E、Fグループの発光 (ON) / 非発光 (--)

増灯リピーティング発光時の設定方法

- ・発光モードは「発光あり」または「発光なし」しか設定できません。
- ・発光量、発光回数、周波数はすべてのマスターフラッシュ、リモートフラッシュに共通となります。
- ・「リピーティング発光」を参照して発光量、発光回数、周波数を設定してください。(□C-15)

1. マスターフラッシュを設定する

(SB-5000で各スピードライトの発光設定を行う場合)



① ロータリーマルチセレクター▲を押して、発光量表示を反転させる

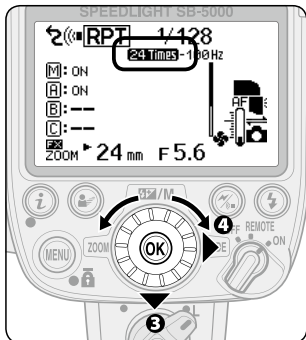
② ロータリーマルチセレクターを回して発光量を設定し、OKボタンを押す (□B-5)

・設定できる発光量は、1/8～1/256です。

③ ロータリーマルチセレクター▼を押して発光回数表示を反転させ、ロータリーマルチセレクターを回して発光回数を設定する

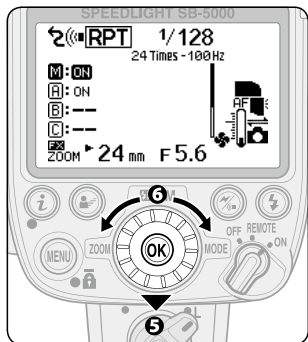
④ ロータリーマルチセレクター▶を押して周波数表示を反転させ、ロータリーマルチセレクターを回して周波数を設定し、OKボタンを押す

・発光量、発光回数、周波数は、*i*メニューからも設定できます。(□B-9)

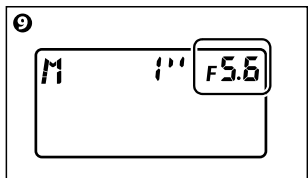


D

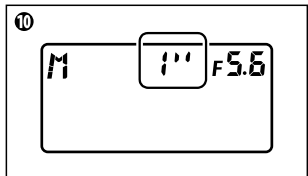
ワイヤレス増灯撮影



カメラの液晶表示



カメラの液晶表示



⑤ ロータリーマルチセレクター▼を押して \square (マスターフラッシュ)を反転表示させる

⑥ ロータリーマルチセレクターを回してマスターフラッシュの発光の有無を選択し、OKボタンを押す

⑦ 手順⑤、⑥に準じて、リモートフラッシュの発光の有無を選択する

⑧ 設定した発光量と焦点距離からガイドナンバーを求める

・ガイドナンバーの詳細は、「仕様」(□H-20)をご覧ください。

⑨ スピードライトから被写体までの距離とガイドナンバーから絞り値を求めて、カメラ側で絞り値を設定する

・絞り値は計算式で求めます。(□H-5)

・SB-5000では絞り値を設定できません。

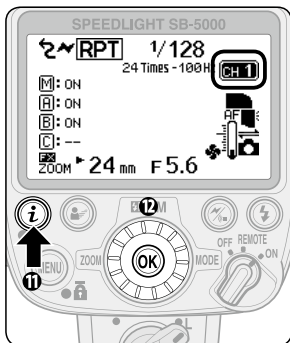
⑩ シャッタースピードを設定する

・次の計算式で求めた秒数よりも遅いシャッタースピードにしてください。

発光回数 ÷ 周波数 = 秒数

・例えば、発光回数を10回、周波数を5Hzに設定した場合、シャッタースピードは2秒より低速に設定してください。

・Bulb (バルブ) も設定できます。



光制御時のみ

- ① **i**メニューで [CHANNEL] を選ぶ (□B-9)
- ② ロータリーマルチセレクターを操作して使用チャンネルを選択し、**OK** ボタンを押す (□B-5)

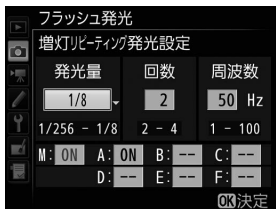
- ・発光の有無、発光量、発光回数、周波数、チャンネルは、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)

2. リモートフラッシュを設定する

リモートフラッシュのグループ、チャンネル、照射角を設定する

- ・設定方法は□D-17を参照してください。
- ・各スピードライトの状態を確認して、撮影してください。

カメラ側で発光設定を行う場合



カメラメニューで設定を行ってください。

- ・詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。

ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影

ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影は、リモートフラッシュがマスターフラッシュの光に反応して自動的に発光を行います。本発光直前のモニター発光をしないため、マスターフラッシュとリモートフラッシュの発光にタイムラグがほとんどなく、特に動きが速い被写体の撮影に適しています。SB-5000は、リモートフラッシュとしてのみ対応が可能です。

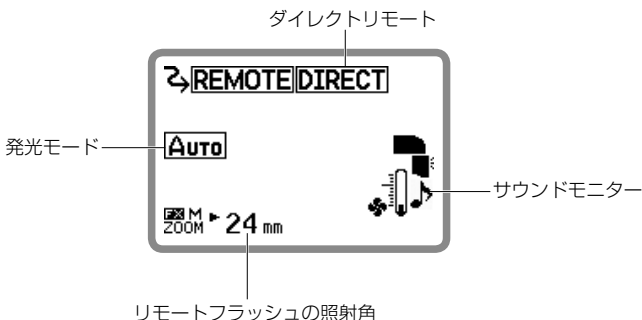
- ・ダイレクトリモートを使用するときは、必ずマスターフラッシュのモニター発光を禁止してください。誤発光の原因になります。

ダイレクトリモートのワイヤレス増灯の設定方法

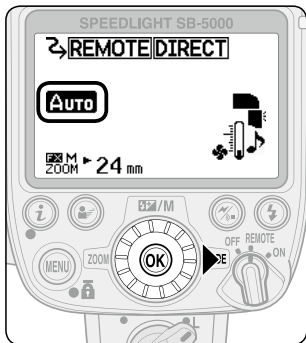
- ①電源スイッチの指標を [REMOTE] に合わせる
- ②ワイヤレス設定ボタンを押して、ダイレクトリモートモードに設定する

ワイヤレス増灯撮影

ダイレクトリモート時の表示例



■ダイレクトリモートの発光モード



AUTO (オート)、M (マニュアル)、OFF (受光禁止)の3つがあります。発光モードは、ロータリーマルチセレクター▶を押して発光モード表示を反転させてから、ロータリーマルチセレクターを操作して選択し、OKボタンを押して決定します。(□B-5)

- 発光モードは、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)

Auto (オート) モード:

- マスターフラッシュの発光開始と発光停止に連動して、リモートフラッシュも発光開始と発光停止を行います。
- マスターフラッシュとリモートフラッシュの発光量を合わせた調光ができます。
- マスターフラッシュの発光開始と発光停止を感知できる距離は、マスターフラッシュの対向正面で約7m以内です。

M (マニュアル) モード:

- マスターフラッシュの発光開始に連動して、リモートフラッシュが発光を開始します。発光停止には連動しません。
- マスターフラッシュとリモートフラッシュの発光量を独立して設定できます。
- マスターフラッシュの発光開始を感知できる距離は、マスターフラッシュ対向正面で約40m以内です。
- 発光量はM 1/1～M 1/256に設定できます。

D

ワイヤレス増灯撮影

☞OFF (受光禁止) :

マスターフラッシュが発光しても、リモートフラッシュは発光しません。

☑ 誤発光を防止するには

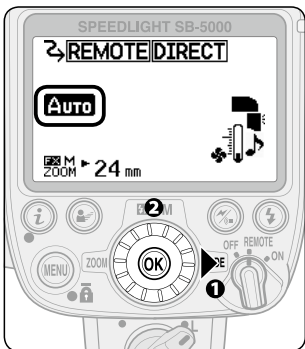
ダイレクトリモート時は、静電気や周囲の電磁波ノイズによって発光する場合があります。使用しないときは、必ず電源スイッチで電源をOFFにしてください。

■ 撮影の手順

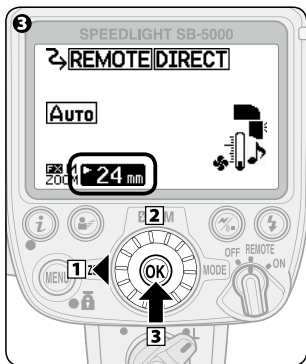
1. リモートフラッシュを設定する

D

ワイヤレス増灯撮影



- ① ロータリーマルチセレクター▶ を押して発光モード表示を反転させる
- ② ロータリーマルチセレクターを操作して発光モードを選択し、OK ボタンを押す (☞B-5)



- ③ ①ロータリーマルチセレクター◀を押して照射角表示を反転させ、②ロータリーマルチセレクターを操作して照射角を選択し、③OKボタンを押す (□B-5)

- ・発光モード、照射角は、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)

✎ M (マニュアル) モード時は発光量を設定する

- ・ M (マニュアル) モード時は、ロータリーマルチセレクター▲を押して、発光量を設定してください。
- ・ 発光量は、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)

2. マスターフラッシュを設定する

- ・ SB-5000をカメラに装着して使用する場合、必ず1灯モードに設定してください。
- ・ 必ずマスターフラッシュのモニター発光を禁止してください。誤発光の原因になります。
- ・ 各スピードライトの状態を確認して、撮影してください。

リモートフラッシュの配置について

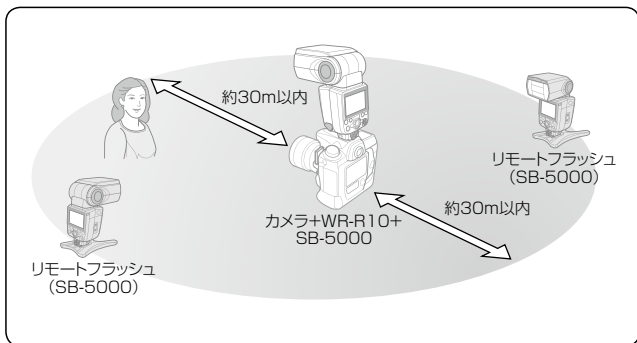
- 同じグループのリモートフラッシュは1カ所にまとめ、同じ方向に向けてください。
- 付属のスピードライトスタンドAS-22を使用すると、リモートフラッシュを安定して設置できます。スピードライトの取り付け、取り外しは、アクセサリースューと同様に行ってください。
- スピードライトをスタンドに装着したまま移動するときは、必ずスピードライトの方を持ってください。
- 必ずリモートフラッシュの状態を確認してから撮影してください。
- リモートフラッシュの照射角は、狙いがはずれても被写体に光が十分に当たるように、撮影画角より広めに設定します。特に、被写体に近い場合は、より広くする必要があります。

D

ワイヤレス増灯撮影

■ 電波制御時

- マスターフラッシュとリモートフラッシュの距離は、約30mまでが目安です。ただし、周囲の環境により、この距離は多少変化します。
- リモートフラッシュは、自由な向きに設置できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数は18台です。
- カメラ、WR-R10、スピードライトの設定および配置が終わったら、必ずカメラに装着したマスターフラッシュのテスト発光ボタンを押して、リモートフラッシュが発光することを確認してください。
- 電波制御リモートモードに設定すると、カメラ側と通信している間は、スタンバイ機能が解除されます。電池の消耗に注意してください。カメラ側と通信を行っていないときは、メニュー設定 (□B-19) にかかわらず、スタンバイ状態になります。

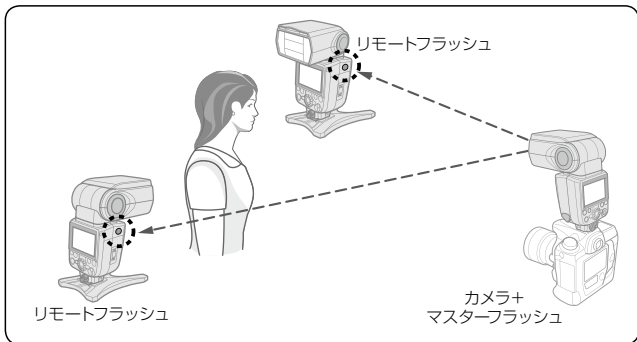


D

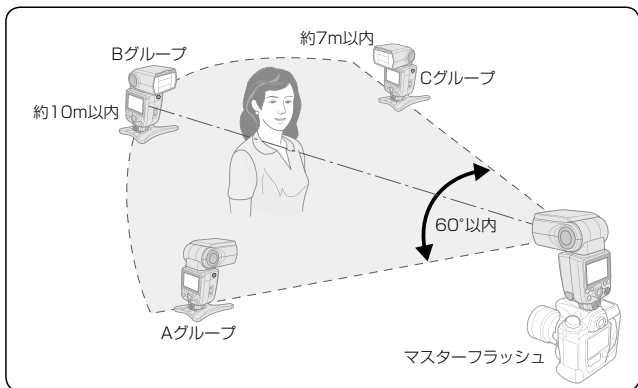
ワイヤレス増灯撮影

■ 光制御時

- リモートフラッシュは、マスターフラッシュの光がワイヤレスリモートセンサー窓に入る位置に置きます。特に、手持ちで撮影する場合、マスターフラッシュの光が確実にワイヤレスリモートセンサー窓に入るように、リモートフラッシュはカメラより前に配置してください。
- 配置が終わったら、必ずマスターフラッシュのテスト発光ボタンを押して、リモートフラッシュが発光することを確認してください。



- マスターフラッシュとリモートフラッシュの距離は、マスターフラッシュの対向正面で約10mまで、両サイドで約7mまでが目安です（アドバンストワイヤレスライティング撮影時）。ただし、周囲の照明環境により、この距離は多少変化します。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。しかし、撮影環境によっては他のスピードライトの発光の影響を受けることがあるため、3台程度が実用的です。アドバンストワイヤレスライティング撮影の場合は、1グループ最大3台程度を目安にしてください。



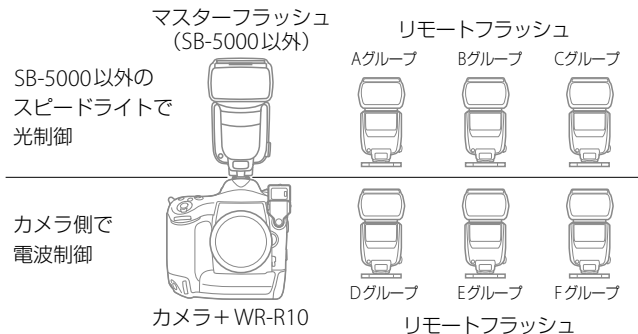
- リモートフラッシュの光が、カメラの撮影レンズやマスターフラッシュの外部自動調光用センサー窓に入らないようにしてください。
- 正常な交信ができなくなるため、マスターフラッシュとリモートフラッシュの間に障害物を置かないでください。
- 光制御リモートモードに設定すると、スタンバイ機能が解除されます。電池の消耗に注意してください。

D

ワイヤレス増灯撮影

光制御と電波制御の併用について

下記の組み合わせで、光制御と電波制御を併用したグループ発光が可能です。



■ マスターフラッシュ（光制御）

マスターフラッシュ機能を搭載した旧機種スピードライト（SB-910など）をカメラに装着し、A、B、Cグループのリモートフラッシュを制御するマスターフラッシュとして使用します。

- 光制御と電波制御の併用時、SB-5000はマスターフラッシュとして使用できません。

■ リモートフラッシュ A、B、Cグループ（光制御）

光制御のリモートフラッシュとして、最大3グループ（A、B、C）までの設定が可能です。

- カメラに装着した旧機種のスピードライトがマスターフラッシュとなります。
- SB-5000をA、B、Cグループのリモートフラッシュとして使用する場合、必ず光制御リモートに設定してください。

■ カメラとWR-R10（電波制御）

WR-R10を装着した電波制御対応カメラ（D5、D500）を使用し、D、E、Fグループのリモートフラッシュを制御します。

- 詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。

■ リモートフラッシュ D、E、Fグループ（電波制御）

電波制御のリモートフラッシュとして、最大3グループ（D、E、F）までの設定が可能です。

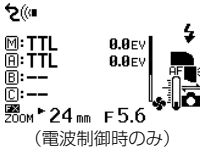
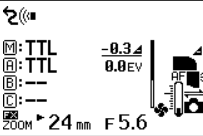

- WR-R10を装着したカメラ側で発光設定を行います。
- 詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。

ワイヤレス増灯撮影時の状況確認について

ワイヤレス増灯撮影時、撮影前後のSB-5000の状況は、レディーライト、AF補助光、モニター音、表示パネル、LINKライト（電波制御時のみ）で確認することができます。

- ・リモートフラッシュの状況を音で知るには、サウンドモニターONに設定します。サウンドモニターのON/OFFは、セットアップメニューで切り換えます。（□B-19）
- ・リモートフラッシュのレディーライトとAF補助光は消費電力節減のため、セットアップメニューで消灯させることができます。初期設定は、レディーライトのみが点灯する設定です。（□B-19）

マスターフラッシュ

レディーライト	表示パネル	状態
点灯	 <p>（電波制御時のみ）</p>	充電完了
消灯後、充電完了で点灯	—	正常発光
点滅（約3秒間）		光量不足の可能性があります。スピードライトから被写体までの距離を短くする、絞り値を開放側（小さい方の数値）にする、ISO感度を上げるなどして、撮影し直してください。
消灯		お使いのカメラが、電波制御ワイヤレス増灯撮影に非対応です。カメラを確認してください。

リモートフラッシュ

レディー ライト	AF 補助光	サウンド モニター	表示パネル	状態
点灯	点滅	「ピー」が 1回	—	充電完了
点灯	点滅 または 消灯	「ピッ」が 2回	—	正常発光
速い 点滅 (約3秒 間)	速い 点滅 (約3秒 間)	「ピー」が 8回		光量不足の可能性があります。スピードライトから被写体までの距離を短くする、絞り値を開放側（小さい方の数値）にする、ISO感度を上げるなどして、撮影し直してください。
点灯	速い 点滅 (約6秒 間)	「ピー」が 12回 (低い音と 高い音が 交互に 鳴る)	—	リモートフラッシュが正常に信号を受信できませんでした。光制御時の場合、スピードライト自身の反射光や、他のリモートフラッシュの光が強くなって、マスターフラッシュの発光停止を検出できなかった可能性があります。リモートフラッシュの位置を変えて、撮影し直してください。

D

ワイヤレス増灯撮影

LINKライト

LINK ライト	状態
点灯（緑色）	電波通信中
点滅 (オレンジ色)	正常な通信が成立していません。 カメラのワイヤレス設定を確認してください。 WR-R10と同じチャンネルに設定されているか、確認してください。 カメラと同じリンクモードに設定されているか、確認してください。 PINコードの場合は、カメラと同じPINコードに設定されているか、確認してください。

主な機能

SB-5000の各種撮影機能や撮影をサポートする機能、カメラで設定する撮影機能を説明しています。

- ・カメラ側の機能や設定については、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。

配光タイプ切り換え機能 (□E-2)	
バウンス撮影 (□E-3)	
近距離撮影 (□E-9)	
カラーフィルターを使用した撮影 (□E-12)	
撮影をサポートする機能 (□E-18)	調光補正 オートパワーズーム AF 補助光 テスト発光 モデリング発光 スタンバイ 過熱防止
カメラ側の設定による撮影機能 (□E-26)	オート FP ハイスピードシンクロ撮影 (FP発光) FV ロック撮影 スローシンクロ (スローシャッター) 撮影 赤目軽減発光撮影 後幕シンクロ撮影

E

主な機能

配光タイプ切り換え機能

スピードライトの配光は、画面中央がいちばん明るく、周辺になるほど暗くなるのが一般的です。SB-5000では、画面中央と周辺の光量差を制御する配光タイプを3種類備えており、撮影シーンに応じて選択できます。

スタンダード配光

一般的なスピードライト撮影に適した、基本的な配光タイプです。

均質配光

周辺部の光量落ちが、スタンダード配光よりさらに少ないタイプです。

・ 集合写真など、画面の周辺部まで明るくしたい撮影に適しています。

中央部重点配光

スタンダード配光に比べて、画面周辺部の光量は落ちますが、中心部ではより大きなガイドナンバーが得られます。


・ ポートレートなど、四隅の光量落ちを気にしない撮影に適しています。


配光タイプの設定方法




セットアップメニューで、配光タイプを切り換えます。(□B-19)

・ 設定中の配光タイプはアイコンで表示されます。

 スタンダード配光

 均質配光

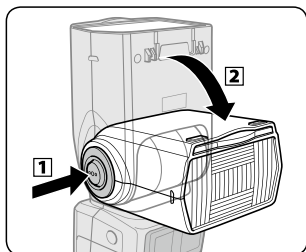
 中央部重点配光

バウンス撮影

フラッシュヘッドを回転させて、天井などに反射させた光を利用する撮影をバウンス撮影といいます。被写体に正面からスピードライトの光を当てる場合に比べて、次のような効果があります。

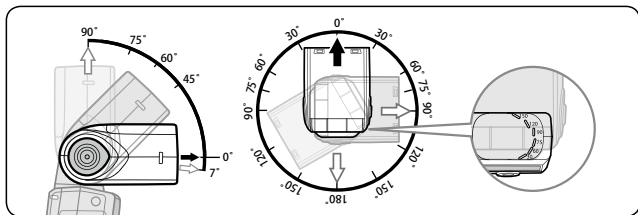
- 近い被写体だけが白とびするのを軽減できます。
 - 背景に出る影を弱められます。
 - 人物の肌や髪や服のてかりを抑えられます。
- バウンスアダプターを装着すると、スピードライトの光が広く拡散して、さらにソフトに照明できます。

■ フラッシュヘッドの設定方法



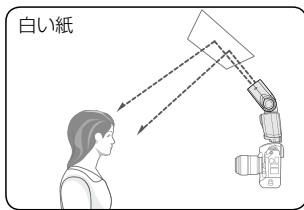
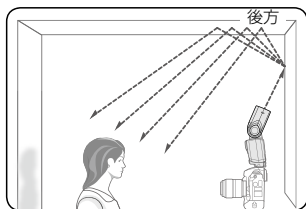
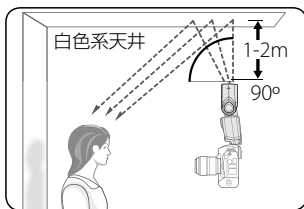
①フラッシュヘッドロック解除ボタンを押しながら、②フラッシュヘッドを回転させる

- 上方向90°～下方向7°、左右に180°ずつ回転できます。
- 図に示す数値の角度でクリックストップします。



■ バウンス角度、反射面の選び方

- ・フラッシュヘッドを上方向に設定して、天井（反射面）にバウンスさせるのが最も簡単な撮影方法です。
- ・カメラを縦位置に構えた場合は、フラッシュヘッドを左右に回転させると、同様の効果が得られます。
- ・カメラ後方の天井や壁にバウンスさせると、上方バウンスに比べて、さらにやわらかく照明できます。
- ・反射面は、白色系で反射率の高いものを選んでください。反射面に色があると、被写体にその色が影響します。
- ・スピードライトの光が直接被写体に当たらないように注意してください。
- ・フラッシュヘッドと反射面との距離は、撮影状況にもよりますが、1～2m前後が理想的です。
- ・反射面が遠過ぎる場合は、白い紙（A4判程度）を反射面に利用すると効果的です。このとき、反射光が被写体に当たっていることを確認してください。

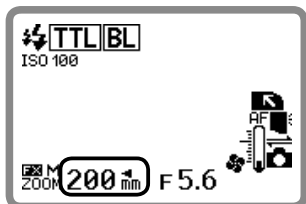


■ バウンス時のズーム位置切り換えについて

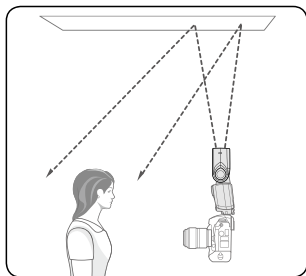
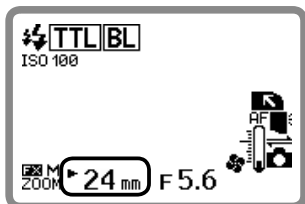
バウンス時の照射角は、セットアップメニューでテレ側かワイド側に固定することができます。(□B-19)

- ・バウンス撮影時、天井が高いところではテレ側に、低いところではワイド側に設定することをおすすめします。

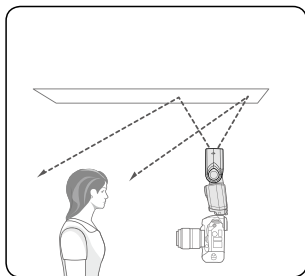
テレ側に設定時



ワイド側に設定時



発光時の光の広がりを抑えることで、天井（反射面）までの距離が長い場合でも、十分な反射光が得られます。



発光時の光の広がりを大きくすることで、天井（反射面）までの距離が短い場合でも、やわらかい反射光が得られます。

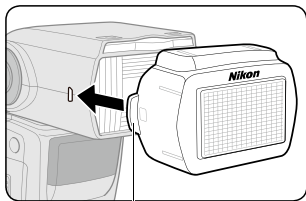
E

主な機能

■ バウンスアダプターの使い方

- スピードライトの光がバウンスアダプターによって広い範囲に拡散され、さらに光をやわらげ影を抑えることができます。
- カメラを縦位置に構えた場合でも、同様の効果が得られます。
- ワイドパネルを併用すると、さらに光を拡散する効果が得られます。(□E-10)

装着方法

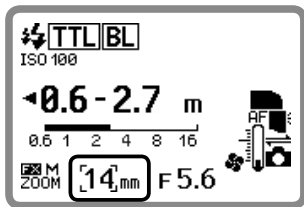


取り外しノブ

バウンスアダプターは図のように、Nikonロゴを上にして取り付けてください。

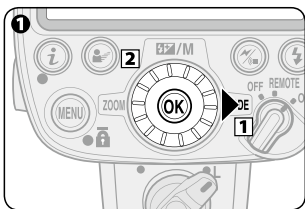
- 外すときは、バウンスアダプターの取り外しノブを外側に引っ張りながら外してください。

照射角表示



- バウンスアダプター装着時の照射角は、配光タイプに応じて、FXフォーマットでは12mm、14mm、17mm、DXフォーマットでは8mm、10mm、11mmに切り換えられます。(□E-2)
- 配光タイプはセットアップメニューで切り換えてください。(□B-19)

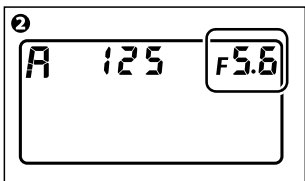
■ バウンス撮影の手順



① 発光モードを設定する

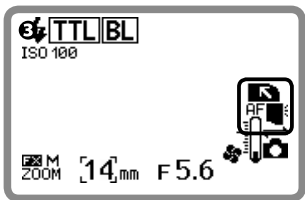
- ・ ①ロータリーマルチセレクター▶を押して発光モード表示を反転させ、②ロータリーマルチセレクターを操作して発光モードを設定してください。
- ・ i-TTL調光、絞り連動外部自動調光、外部自動調光のいずれかに設定します。

カメラの液晶表示



② カメラ側で絞り値、シャッター速度などを設定する

E
主な機能



③ フラッシュヘッドを設定し、撮影する

- ・ 「フラッシュヘッドの設定方法」を参照して設定してください。(☞E-3)

📌 バウンス撮影時の露出について

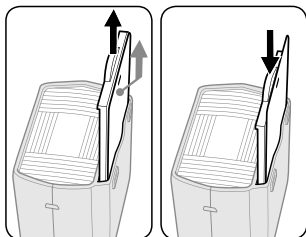
通常（フラッシュヘッドが正面位置）の撮影に比べて、バウンス撮影は光量が減少します。マニュアル露出で撮影する場合、2～3段開放側（小さい数値）の絞り値、または2～3段高いISO感度に設定して、撮影結果を見ながら調整してください。

- フラッシュヘッドを正面か下方向以外の位置に設定すると、調光範囲の表示が消灯します。正面位置で調光範囲と絞り値を確認してから、絞り値を設定してください。

📌 キャッチライト反射板の使い方

- バウンス撮影時、キャッチライト反射板を使うと、人物の目に光を与えて、目を生き生きと表現できます。
- フラッシュヘッドは上方90°に向けてください。「フラッシュヘッドの設定方法」を参照して設定してください。（□E-3）

反射板の設定方法

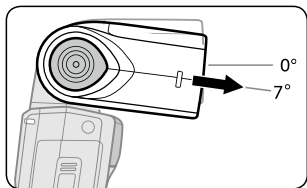


ワイドパネルと反射板を一緒に引き出して、ワイドパネルだけを押し戻してください。

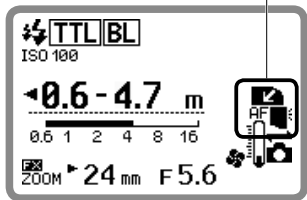
- 反射板は、ロックがかかるところまで引き出してください。
- 戻すときは、再度ワイドパネルを引き出して、反射板と一緒に押し戻してください。

近距離撮影

スピードライトから被写体までの距離が約2mより近い場合は、フラッシュヘッドを下方方向に設定すると、被写体の下側にもスピードライトの光を十分に回すことができます。



下方バウンスアイコン

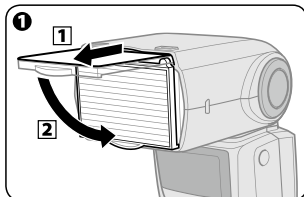


- フラッシュヘッドを下方方向に設定すると、下方バウンスアイコンが表示されます。
- 全長が長いレンズでは、スピードライトの光がレンズの先端部分でさえぎられる場合があるので、ご注意ください。
- 近距離撮影時は、スピードライトの配光や使用するレンズ、焦点距離などにより、撮影画面の一部が光量不足になるケラレ現象が発生する場合があります。試し撮りをおすすめします。

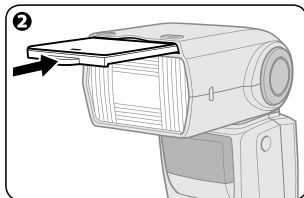
ワイドパネルの使用について

ワイドパネルを使用すると、スピードライトの光が拡散されるため、影を弱めたり、顔のてかりなどを抑える効果があります。

■ ワイドパネルの設定

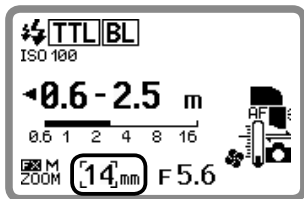


- ① **①**ワイドパネルをゆっくり引き出して、**②**発光部側に倒す



- ② **②**キャッチライト反射板を押し戻す
- ・ワイドパネルを戻す場合は、ワイドパネルを起こして、まっすぐ奥まで押し込んでください。

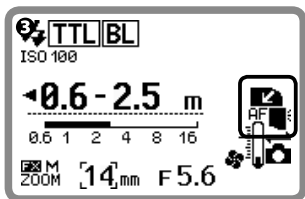
照射角表示



- ・ワイドパネル設定時の照射角は、配光タイプに応じて、FXフォーマットでは12mm、14mm、17mm、DXフォーマットでは8mm、10mm、11mmに切り換えられます。
- ・配光タイプはセットアップメニューで切り換えてください。(☐B-19)

■ 下方バウンスによる近距離撮影の手順

- ① 発光モードを設定する (□B-18)
- ② ワイドパネルを設定する
- ③ フラッシュヘッドを下方向に設定する
- ④ レディーライトの点灯を確認して、撮影する



📌 ワイドパネルが取れてしまった場合は

- ワイドパネルを設定した状態で強い衝撃を与えると、ワイドパネルが外れるおそれがありますので、ご注意ください。
- ワイドパネルが取れてしまった場合の補修は、ご購入店またはニコンサービス機関にご依頼ください。

カラーフィルターを使用した撮影

SB-5000には、蛍光灯用と電球用の色補正カラーフィルターが付属しています。環境光の色とフラッシュの色を近づけて、自然な仕上がりにすることができます。

- ・スピードライトの光の着色には、別売のカラーフィルターセットSJ-5とカラーフィルタホルダーSZ-4が必要です。(□H-11)

■ カラーフィルターの種類と用途

カラーフィルター	用途
蛍光灯用カラーフィルター (SZ-4FL。付属品)	蛍光灯の光源による影響を補正
電球用カラーフィルター (SZ-4TN。付属品)	電球の光源による影響を補正
着色用カラーフィルター (SJ-5。別売)	スピードライトの光に着色

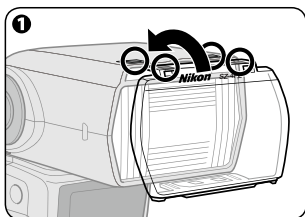
📌 付属のカラーフィルターと別売のカラーフィルターの補正効果について

付属のカラーフィルターSZ-4TN(電球用)と別売のカラーフィルターTN-A1/TN-A2(電球用)は、補正効果が多少異なるため、同じ光源で撮影しても画像に再現される色味に若干の差があります。この差は、カメラのホワイトバランスの微調整で補正することができます。調整量は□E-17をご覧ください。

E

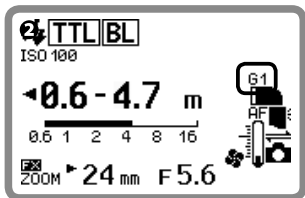
主な機能

■ 色補正用カラーフィルター（付属品）の使い方



① カラーフィルターを、フラッシュヘッドにかぶせて差し込む

- ・ 図のように、Nikonロゴを上にして取り付けてください。

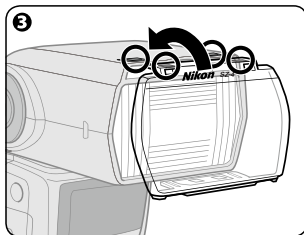
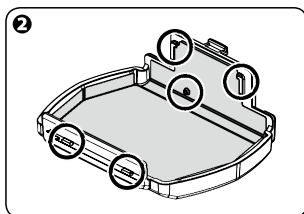
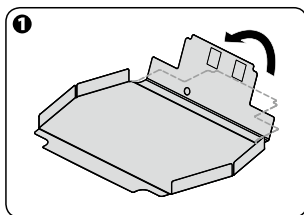


② 表示を確認する

- ・ カラーフィルターの種類が表示されます。
- ・ SB-5000からカメラにカラーフィルターの情報が送られます。

G1	蛍光灯用カラーフィルター
R1	電球用カラーフィルター

■ 着色用カラーフィルター（別売）の使い方



① カラーフィルターを折り線のところで、きちんと折りまげる

② 図のように、カラーフィルターをカラーフィルターホルダー（SZ-4、別売）に装着する

- ・ カラーフィルターの端をホルダーの切り込みに差し込み、フィルターの位置合わせ穴とホルダーの突起を合わせてください。

- ・ カラーフィルターの識別コード（銀色のマーク）をホルダーの黒い部分に合わせてください。

- ・ カラーフィルターはホルダーに密着させてください。浮き上がったり、端がめくれたりしている場合は、装着し直してください。

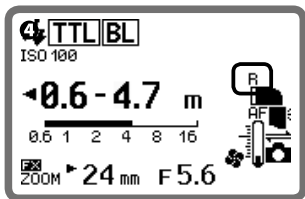
③ カラーフィルターホルダーを、フラッシュヘッドにかぶせて差し込む

- ・ 図のように、Nikon ロゴを上にして取り付けてください。

- ・ カラーフィルターホルダーは、必ずカラーフィルターを付けてからフラッシュヘッドに装着してください。

E

主な機能



フィルターRED装着時

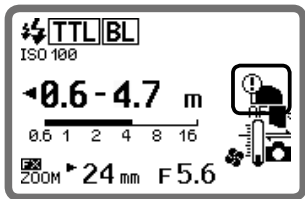
④ 表示を確認する

- ・ カラーフィルターの種類が表示されます。
- ・ カラーフィルター識別センサーはふさがないでください。

G1	FL-G1 (蛍光灯用)	R	RED
G2	FL-G2 (蛍光灯用)	B	BLUE
A1	TN-A1 (電球用)	Y	YELLOW
A2	TN-A2 (電球用)	A	AMBER

E

主な機能



警告表示

- ・ 図の警告表示が出た場合は、カラーフィルターが正常に装着されていません。再度、装着し直してください。

▼ 着色用カラーフィルター（SJ-5）使用上のご注意

- カラーフィルターは消耗品です。外観が著しく劣化したときは、予備のフィルターと交換してください。
- 発光時の熱などによってカラーフィルターの外観が変形しても、性能には問題ありません。
- カラーフィルターにキズなどがあっても、変色していないかぎり、性能には問題ありません。
- カラーフィルターが汚れた場合は、乾いた柔らかい布などで軽く拭き取ってください。

■ カラーフィルターとカメラのホワイトバランス設定

カメラのホワイトバランスを「オート」または「フラッシュ」に設定し、色補正用カラーフィルターを装着すると、カメラが自動的に最適なホワイトバランスを設定します。

- 着色用カラーフィルター使用時は、カメラのホワイトバランスを「オート」、「フラッシュ」、「晴天」のいずれかに設定します。
- フィルター識別機能を備えていないカメラ（D2シリーズ、D1シリーズ、D200、D100、D80、D70シリーズ、D60、D50、D40シリーズ）では、装着したカラーフィルターに合わせて、次の表を参照して、カメラのホワイトバランスを設定してください。
- ホワイトバランスの詳細は、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。

E

主な機能

■ カメラ別のホワイトバランス設定

カメラ フィルター	D5、D4、D4S、 D3 ^{*1} 、D3X、D3S、 Df、D810、D810A、 D800シリーズ、 D750、D700、 D610、D600、 D500、D300 ^{*2} 、 D300S、D90、 D7200、D7100、 D7000、D5500、 D5300、D5200、 D5100、D5000、 D3300、D3200、 D3100、D3000	D2シリーズ、 D1X、D1H、 D200、D100、 D80、 D70シリーズ、 D60、 D40シリーズ	D1、D50
SZ-4FL (蛍光灯用)	オート、フラッシュ	推奨しません	推奨しません
SZ-4TN (電球用)	オート、フラッシュ	電球 ^{*3}	電球
FL-G1 (蛍光灯用)	オート、 フラッシュ ^{*4}	推奨しません	推奨しません
FL-G2 (蛍光灯用)	オート、フラッシュ	推奨しません	推奨しません
TN-A1 (電球用)	オート、 フラッシュ ^{*5}	電球 ^{*3}	電球
TN-A2 (電球用)	オート、フラッシュ	晴天 ^{*3}	晴天
着色用 カラーフィルター (RED、BLUE、 YELLOW、AMBER)	オート、フラッシュ、 晴天	オート、 フラッシュ、 晴天	オート、 フラッシュ、 晴天

※1 D3カメラのファームウェアがA：2.00、B：2.00以降で対応。

※2 D300カメラのファームウェアがA：1.10、B：1.10以降で対応。

※3 仕上がりに応じて微調整をしてください。

※4 FL-G1使用時にSZ-4FLと同じ補正効果を得るには、ホワイトバランスを「オート」に設定するか、「フラッシュ」に設定したうえで撮影結果を見ながら必要に応じて微調整をしてください。

※5 TN-A1使用時にSZ-4TNと同じ補正効果を得るには、ホワイトバランスを「オート」に設定するか、「フラッシュ」に設定したうえで撮影結果を見ながら必要に応じて微調整をしてください。

撮影をサポートする機能

調光補正

スピードライトの発光量だけを意図的に変えて、背景の明るさを変えずに主要被写体の明るさのみを変えることを調光補正といいます。

- ・ 主要被写体を明るくしたい場合は+側に、暗くしたい場合は-側に補正します。
- ・ 発光モードがi-TTL調光、絞り連動外部自動調光、外部自動調光、距離優先マニュアル発光の場合に補正できます。



① ロータリーマルチセレクター▲を押して、調光補正值表示を回転させる

- ・ 調光補正值が“0”に設定されていると、調光補正值は表示されません。

② ロータリーマルチセレクターを操作して、調光補正值を設定する

- ・ +3.0～-3.0の範囲で、1/3段ステップで設定できます。

③ OKボタンを押す

- ・ 調光補正值は、iメニューからも設定できます。(□B-9)

E

主な機能

調光補正を解除するには

- ・ 調光補正值を“0”に設定してください。
- ・ 電源をOFFにしても、調光補正は解除されません。

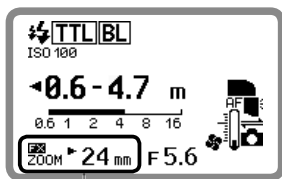
調光補正機能を備えたフラッシュ内蔵デジタル一眼レフカメラについて

- ・調光補正機能を備えたフラッシュ内蔵デジタル一眼レフカメラは、カメラ側でも発光量を補正できます。詳細はお使いのカメラの使用説明書をご覧ください。
- ・スピードライトとカメラの両方で調光補正した場合は、両方の補正量を加算して発光します。ただし、スピードライトの表示パネルにはスピードライトで設定した補正值のみが表示されます。

オートパワーズーム

- SB-5000は、レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動的に設定されます。
- ・SB-5000を取り付けたカメラからレンズの焦点距離情報が得られる場合は、自動的にオートパワーズームに設定されます。
 - ・自動設定できる照射角は設定によって異なります。

E
主な機能



オートパワーズーム状態

ZOOM	オートパワーズーム
ZOOM M	照射角の手動設定
ZOOM	オートパワーズーム禁止 (手動設定専用)
14 mm	バウンスアダプター装着時 ワイドパネル使用時
24 mm	最広角側の照射角
200 mm	最望遠側の照射角

照射角の手動設定

レンズの焦点距離と異なる照射角に設定する場合は、手動で設定します。

- ・手動設定時は照射角表示にMが表示されます。
- ・ロータリーマルチセレクター◀を押して照射角表示を反転させ、ロータリーマルチセレクターを操作して照射角を設定します。

- ロータリーマルチセレクターを右に回すか▲▶を押すと数値が増え、左に回すか▼◀を押すと数値が減ります。
- 照射角は、**i**メニューからも設定できます。(□B-9)
- 自動設定に戻る場合は、**i**ボタンを押して**i**メニューを表示させ、**zoom**を選択してください。

■ オートパワーズームの禁止

オートパワーズーム機能はセットアップメニューで禁止できます。(□B-19)

- オートパワーズームを禁止すると照射角表示に**M**が表示されます。
- 照射角を手動で設定でき、ズーミングやレンズ交換または電源ON/OFFを行っても照射角が変わりません。
- 照射角の設定方法は「照射角の手動設定」と同じです。

■ AF補助光




被写体が暗く、オートフォーカスでのピント合わせが難しい場合でも、AF補助光により、オートフォーカスでピントを合わせることができます。

- SB-5000のAF補助光はマルチポイントAFに対応しています。
- AF補助光はニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) に対応していないカメラおよびニコンコンパクトデジタルカメラ COOLPIX では使用できません。

■ AF補助光の使用条件

- AF補助光は、オートフォーカスができるレンズを使い、フォーカスモードがシングルAFサーボ“S”（フォーカス優先モード）、“AF-A”または“AF”に設定されている場合に使えます。
- AF補助光の有効距離は画面中央部分で約1m～10m（50mm f/1.8レンズ使用時）です。使用レンズによっては、有効距離が短くなる場合があります。
- 使用できるレンズ焦点距離は24mm～135mmです。オートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。


AF補助光が照射されるフォーカスポイント(D5の場合)


24 ~ 49mm の場合	50 ~ 84mm の場合	85 ~ 135mm の場合
		

- ・フォーカスロックしている場合や、レディーライトが点灯していない場合は、AF補助光が照射されません。
- ・詳細はお使いのカメラの使用説明書をご覧ください。

■ AF補助光/本発光禁止の設定

カスタムメニューでAF補助光の照射/禁止、スピードライトの発光禁止を設定できます。(□B-19)

 AF補助光を照射します(初期設定)。

 AF補助光の照射を禁止します。AFが表示されません。

E

主な機能



スピードライトの発光を禁止し、AF補助光だけを照射します。

✓ AF補助光を使用してもピントが合わない場合は

AF補助光が照射されてもファインダー内のピント表示が点灯しないときは、画面中央部分のフォーカスポイントを選択してオートフォーカスでピントを合わせるか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてください。詳しくは、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。

✎ SB-5000をカメラから離して使用する際には

AF補助光機能を備えたTTL調光コードSC-29を使用すると、SB-5000をカメラから離して使用する際にも、AF補助光を使用したオートフォーカスでのピント合わせができます。(□H-14)

✎ フラッシュ内蔵カメラのAF補助光との関係

- カメラ側にAF補助光機能がある場合でも、SB-5000のAF補助光が優先され、自動的にAF補助光が照射されます。カメラのAF補助光は照射されません。
- SB-5000でAF補助光の照射を禁止している場合は、カメラのAF補助光が照射されます。

■ テスト発光

テスト発光ボタンを押すと発光して、SB-5000が正常に発光するかどうかを確認できます。

- テスト発光の光量は、発光モードや設定によって異なります。
- 光制御ワイヤレス増灯でマスターモードに設定しているときは、テスト発光できません。マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すと、リモートフラッシュがAグループから順に発光します。
- 電波制御ワイヤレス増灯では、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すと、マスターフラッシュが発光した後で、リモートフラッシュがAグループから順に発光します。

■ モデリング発光

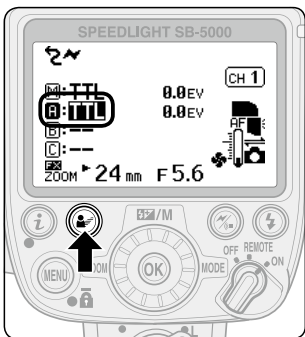
モデリング発光ボタンを押すと一定の微小光量で連続発光して、てかりや影など、ライティング状態をチェックすることができます。

- ・発光時間は、最長約1秒間です。
- ・モデリング発光機能を持つカメラのプレビューボタンを押すと、モデリング発光します。詳細はお使いのカメラの使用説明書をご覧ください。

■ アドバンストワイヤレスライティング増灯撮影時

(□D-15)

- ・マスターフラッシュのモデリング発光ボタンを押すと、マスターフラッシュが一定の光量でモデリング発光します（非発光の場合を除く）。
- ・カメラのプレビューボタンを押すと、発光に設定されているマスターフラッシュおよびリモートグループが、設定されたモードと発光量にしたがってモデリング発光します。



光制御時のみ

- ・マスターフラッシュでリモートフラッシュのグループを反転表示させて、モデリング発光ボタンを押すと、選択中のグループのみをモデリング発光させることが可能です（クイックワイヤレスコントロール時のA、Bグループを除く）。

■ ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影時 (□D-27)

- ・モデリング発光しません。

■ スタンバイ



SB-5000とカメラを操作しない状態が一定時間続くと、自動的に待機（スタンバイ）状態になり、電池の消耗を抑えます。

- SB-5000のスタンバイ機能はカメラの半押しタイマーに連動しています（初期設定）。半押しタイマーの詳細は、カメラの使用説明書をご覧ください。

- スタンバイ状態になるまでの時間は、セットアップメニューで変更できます。（□B-19）

スタンバイ状態から電源ONにするには

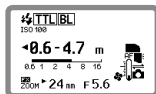
- カメラのシャッターボタンを半押しにする。
- SB-5000の電源スイッチを [OFF] 以外に切り換える。
- SB-5000テスト発光ボタンを押す。

■ 過熱防止

SB-5000は過熱による発光パネルおよび本体の破損を防止する機能を備えています。ただし、この機能は発光によって発光部の温度が上昇するのを防止するものではありません。連続発光を繰り返す場合は、温度上昇に注意してください。

- 連続発光などによって発光部の温度が上昇して、発光パネルや本体に破損のおそれがある場合は、「高温検出警告画面」に変わり、発光が禁止されて、電源OFFとメニュー設定を除く操作ができなくなります。

平常時の画面 高温検出警告画面1～3



→ 温度が高い

- 発光部を自然冷却してください。
- 警告画面が消えると、通常の操作ができます。
- 照射角が変化することによって、まれに「高温検出警告画面」が出たり消えたりすることがありますが、故障ではありません。

■ クーリングシステム

SB-5000は、発光部を効率的に冷却するクーリングシステムを搭載しています。これにより、過熱防止機能が作動するまでの時間を延長することができます。クーリングシステムは、セットアップメニューで[ON]と[OFF]を切り換えられます。

- [ON]時には、発光後にクーリングシステムの動作音が発生します。動作音が気になる場合は、[OFF]に切り換えてください。
- [ON]時には、電池寿命が□H-19に記載された目安よりも短くなる場合があります。
- クーリングシステムが作動している間は、スタンバイ機能が解除されません。

E

主な機能

カメラ側の設定による撮影機能

次の撮影機能は、それぞれの機能を備えたカメラとの組み合わせでできる撮影で、カメラ側で設定します。スピードライトでは設定できません。

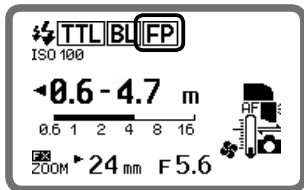
- カメラ側の機能や設定の詳細は、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。

■ オートFPハイスピードシンクロ撮影(FP発光)

FP発光は、対応カメラの最高速度までの高速シャッタースピードでフラッシュが使える機能です。

- シャッタースピードがフラッシュ同調シャッタースピードよりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り換わります。
- 日中の撮影でも、フラッシュ同調シャッタースピードを気にすることなく、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影がお楽しみいただけます。
- アドバンスワイヤレスライティングによる増灯撮影時でも機能します。
- 使用できる発光モードは、i-TTL 調光、モニター発光あり絞り連動外部自動調光、モニター発光あり外部自動調光、距離優先マニュアル発光、マニュアル発光です。
- FP発光時のガイドナンバーについては「仕様」(□H-23)をご覧ください。

FP発光時の表示例



FP : FP発光に設定した対応カメラに装着したときに表示されます。

E

主な機能

■ FVロック撮影

FVロックするとフラッシュ調光量がロックされるため、構図を変えても被写体の明るさを一定に保ったまま撮影できます。

- FVロック中にズーミングや絞り値の変更をしても、発光量は自動追随するのでフラッシュ調光量（明るさ）は変わりません。
- FVロック中はフラッシュ調光量を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。
- アドバンストワイヤレスライティングによる増灯撮影時でも機能します。
- 使用できる発光モードは、i-TTL調光、モニター発光あり絞り連動外部自動調光、モニター発光あり外部自動調光です。
- FVとはFlash Valueの略で、フラッシュによる被写体の露光量を意味します。

■ スローシンクロ（スローシャッター）撮影

背景の露出を考慮して、低速シャッタースピードに制御されるので、夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影ができます。

- シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

■ 赤目軽減発光撮影

本発光直前に微小な光量で3回発光し、目が赤く写る現象を弱めた撮影ができます。

■ 後幕シンクロ撮影

夜間、動いている被写体を通常の先幕シンクロで低速シャッタースピードで撮影すると、光の軌跡が被写体の前方に流れ、不自然な写真になってしまいます。後幕シンクロでは、光の軌跡が被写体の後方に流れる自然な撮影ができます。

- 先幕シンクロ時は先幕走行終了直後に発光しますが、後幕シンクロ時は後幕走行開始直前に発光します。
- 通常、シャッタースピードを低速にして撮影するので、三脚のご使用をおすすめします。
- リピーティング発光時は使用できません。



先幕シンクロ時



後幕シンクロ時

E


主な機能

CLS非対応一眼レフカメラ使用時

SB-5000は、ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）非対応一眼レフカメラとの組み合わせでも使えますが、いくつかの機能は制限されます。

- ・制限される機能は、使用するカメラによって異なります。
- ・使用するカメラの使用説明書もあわせてご覧ください。

CLS対応カメラと非対応カメラの違い

	CLS対応カメラ	CLS非対応カメラ
カメラ通信アイコン 	表示される	表示されない
使用できる発光モード	<ul style="list-style-type: none">・ i-TTL 調光・ 絞り連動外部自動調光・ 外部自動調光・ 距離優先マニュアル発光・ マニュアル発光・ リピーティング発光	<ul style="list-style-type: none">・ 外部自動調光・ 距離優先マニュアル発光・ マニュアル発光・ リピーティング発光
ISO感度設定	自動設定	カスタムメニュー設定
使用できるワイヤレス増灯撮影	<ul style="list-style-type: none">・ アドバンスドワイヤレスライティング・ ダイレクトリモート（リモートモード）	<ul style="list-style-type: none">・ ダイレクトリモート（リモートモード）
カラーフィルターを使用した撮影	使用可能 （フィルター識別機能搭載カメラではフィルター情報を伝達）	使用可能 （ただし、フィルター情報は伝達しません）
FVロック撮影	使用可能	使用不可
オートFPハイスピードシンク口撮影	使用可能	使用不可
赤目軽減発光撮影	使用可能	使用不可
後幕シンク口撮影	使用可能	使用可能
AF補助光	使用可能 （マルチポイントAFに対応）	使用不可
ファームアップ機能	使用可能 （ファームアップ対応カメラ）	使用不可

F

CLS非対応一眼レフカメラ使用時

COOLPIX との組み合わせについて

SB-5000は、次のニコンコンパクトデジタルカメラCOOLPIXとの組み合わせでも使えますが、いくつかの機能は制限されます。

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) 対応COOLPIX (A、P7800、P7700、P7100、P7000、P6000)

i-TTL 調光対応COOLPIX (P5100、P5000、E8800、E8700、E8400)

・使用するカメラの使用説明書もあわせてご覧ください。

COOLPIX 使用時

	CLS対応COOLPIX	i-TTL 調光対応COOLPIX
使用できる発光モード*	・ i-TTL-BL 調光 (A、P7800、P7700のみ) ・ スタンダードi-TTL 調光 ・ 絞り連動外部自動調光 ・ 距離優先マニュアル発光 ・ マニュアル発光 (A、P7800、P7700のみ) ・ リピーティング発光	
使用できるワイヤレス増灯モード**	・ アドバンストワイヤレスライティング ・ ダイレクトリモート (リモートモード)	・ ダイレクトリモート (リモートモード)
モデリング発光	使用不可	
FVロック撮影	使用可能 (Aのみ)	使用不可
オートFPハイスピードシンクロ撮影	使用不可	
AF補助光	使用不可	
発光色温度情報伝達	使用可能 (A、P7800、P7700のみ)	使用不可
赤目軽減発光	使用可能 (P7800、P7700を除く)	使用不可
ファームアップ機能	使用不可	

※ ニコンコンパクトデジタルカメラCOOLPIXの内蔵フラッシュをマスターフラッシュに、SB-5000をリモートフラッシュにしたワイヤレス増灯撮影はできません。

CLS対応のCOOLPIXについて

- マスターフラッシュになるSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700またはワイヤレススピードライトコマンダーSU-800をニコンコンパクトデジタルカメラCOOLPIXのアクセサリースューに取り付けて、SB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500などを「リモートモード」に設定すれば、ワイヤレス増灯撮影ができます。
- 設定条件など詳細は、お使いのカメラの使用説明書をご覧ください。

CLS対応COOLPIXとの組み合わせ時の照射角の設定

オートパワーズーム機能により、レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動的に設定されます。このとき、照射角表示には^{zoom}AUTO（ズームオート）が表示され、照射角の数値は表示されません。

使用上のご注意・資料

トラブルへの対処、お手入れの方法や製品の保証などを説明しています。
また、使用できるアクセサリもご紹介しています。

故障かな？と思ったら






トラブルが起きたり、警告表示が出たら、ご購入店やニコンサービス
機関にお問い合わせになる前に、次の項目を確認してください。



■ SB-5000のトラブル

トラブル	原因	対処方法	□
電源が 入らない	電池の＋が逆になっている	電池を正しく入れてください	B-12
	電池容量が不足している	電池を交換してください	B-13
レディー ライトが 点灯しない	スタンバイ状態になっている	・カメラのシャッターボタンを半押ししてください ・SB-5000の電源スイッチを[OFF]以外に切り換えてください ・SB-5000のテスト発光ボタンを押してください	E-24
	電池容量が不足している	電池を交換してください	B-13
発光 しない	カスタムメニューで発光が禁止されている	発光禁止を解除してください	B-19
調光 距離表示が 出ない	フラッシュヘッドが正面に設定されていない	フラッシュヘッドを正面に設定してください	B-16
	カメラからの絞り値情報、ISO感度情報がない	・カメラの設定を確認してください ・SB-5000をカメラに装着し直してください	—
	カメラからの焦点距離情報がない	SB-5000とカメラの電源を入れ直してください	—

トラブル	原因	対処方法	□
オートズーム動作しない	ワイドパネルを設定している、またはバウンスアダプターを装着している	ワイドパネルまたはバウンスアダプターを外してください	E-6 E-10
	照射角の手動設定になっている	オートパワーズームに設定してください	E-19
リモートフラッシュが発光しない	マスターフラッシュとリモートフラッシュの距離が遠すぎる、または間に障害物がある	マスターフラッシュとリモートフラッシュの配置をやり直してください	D-31
	光制御ワイヤレス増灯撮影で、マスターフラッシュの光がリモートフラッシュのワイヤレスリモートセンサー窓に入っていない		
	電波制御ワイヤレス増灯撮影で、リモートフラッシュのリンクが成立していない	リンク設定をやり直してください	D-9
正常に動作しない	十分な容量がある電池を正しく入れていても左のようなトラブルがある場合は、マイクロコンピュータの誤作動の可能性があります	<ul style="list-style-type: none"> ・SB-5000の電源スイッチを[OFF]以外にしたまま、電池を入れ直してください ・電池を入れ直しても左のようなトラブルが解消されない場合は、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください 	B-12
異常な表示が出る			
ボタンを押しても動作しない	キーロックされている	キーロックを解除してください	B-8
操作ができない	過熱防止機能が働いた	自然冷却して、温度が下がるのを待ってください	E-24

警告表示

表示/警告	原因	対処方法	□
	電池容量不足のため、すべての動作を停止した	電池を交換してください	B-13
	SB-5000が過熱して破損するおそれがあるため、発光を禁止し、電源OFFとメニュー設定を除く操作を停止した	<ul style="list-style-type: none"> SB-5000の電源スイッチを [OFF] 以外にしたまま、自然冷却して、温度が下がるのを待ってください セットアップメニューでクーリングシステムがOFFになっている場合は、ONにしてください 	B-19 E-24
	電圧異常を検出したため、電源スイッチ以外の操作を停止した	電源をOFFにしてから電池を取り出し、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください	H-27
発光直後にレディーライトが点滅	適正露出が得られていない可能性がある	スピードライトから被写体までの距離を短くする、絞り値を開放側にするなどして、撮影し直してください	C-3 C-9 C-12 C-14 D-37
リモートフラッシュが8回「ピー」と鳴った	適正露出が得られていない可能性がある	スピードライトから被写体までの距離を短くする、絞り値を開放側にする、リモートフラッシュの位置を変えるなどして、撮影し直してください	D-38
 NO RESPONSE 	ペアリングに失敗した	チャンネルとリンクモードを確認のうえ、再度ペアリングを実行してください	D-9

表示/警告	原因	対処方法	□
	電波制御ワイヤレス増灯撮影に対応していないカメラに装着された	光制御ワイヤレス増灯撮影を使用してください	D-4
	装着したカラーフィルターが認識できない	カラーフィルターの装着状態を確認してください	E-12
F 5.6	カメラ側で設定した絞り値が調光範囲外である	絞り値を設定し直してください	—
F EE	レンズの絞り値が最小絞りになっていない	レンズを最小絞りに設定してください	—
F	カメラの電源がOFF	カメラの電源をONにしてください	—
ZOOM Err	ズーム動作機構に異常が発生した	<ul style="list-style-type: none"> ・SB-5000の電源を入れ直してください ・電源を入れ直しても表示が消えない場合は、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください 	H-27

ガイドナンバーと絞り値、距離について

ガイドナンバー（GN）とはスピードライトの発光量を示す値で、数値が大きいほど光量が大きく、光が遠くまで届きます。

ガイドナンバー＝スピードライトから被写体までの距離(m)×絞り値(F)という関係があります（ISO 100の場合）。たとえば、SB-5000はガイドナンバーが34.5（ISO 100、照射角35mm、FXフォーマット、スタンダード配光時、23℃）なので、ISO感度が100で絞り値がF8なら、ガイドナンバー34.5÷絞り値8≒4.31mまでスピードライトの光が届くことになります。

- ・ ISO 100以外の場合は、ISO感度に応じてガイドナンバーに下の係数を乗じてください。

ISO	25	50	100	200	400	800	1600	3200	6400
係数	0.5	0.71	1	1.4	2	2.8	4	5.6	8

- ・ ガイドナンバーの詳細は「仕様」をご覧ください。（□H-20）

適正な露出が得られる絞り値、距離の求め方

絞り値 = ガイドナンバー (ISO 100 · m) × ISO感度係数 ÷
スピードライトから 被写体までの距離 (m)

スピードライトから被写体までの距離 (m) =
ガイドナンバー (ISO 100 · m) × ISO感度係数 ÷ 絞り値

お手入れについて

■ お手入れの方法

- 発光パネルにゴミが付着したまま発光させると、発光パネルの破損につながります。定期的にパネルを清掃してください。
- ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。
- ブラシなどで表示パネルを拭いた場合、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらく放置すると、正常な状態に戻ります。
- スピードライト内部には、精密な電子部品が多く含まれています。振動や衝撃を与えないでください。また、表示パネルを強い力で押さないでください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を清浄に使用しないでください。火災や健康障害の原因となります。

■ 保管の方法

- カビや湿気による故障を防ぐため、風通しの良い乾燥したところに保管してください。
- 防虫剤や磁気を発生する器具の近くには、置かないでください。
- 極端に高温になるところ（夏期の車内やストーブなどの近く）には、置かないでください。故障の原因となります。
- 約2週間以上使用しないときは、電池の液もれによる故障を防ぐために、電池を取り出してください。
- コンデンサー（スピードライト内部の部品）の劣化を防ぐため、約1カ月に1回は2、3回テスト発光させてください。

■ ご使用になる場所にご注意ください

- 極端に温度差がある場所に移動すると、スピードライトの内部や外観部に水滴が生じることがあります。バッグやビニール袋などに入れ、周囲の温度になじませてからご使用ください。
- テレビ塔や高圧鉄塔に近い場所では、強い磁気や電波が発生しており、誤作動することがあります。

電池についてのご注意

- 一般的に、スピードライトは非常に大きな電流を消費するため、電池などに記されている充放電回数前に電池が使えなくなる場合があります。
- 電池を交換するときは、電源をOFFにしてから、+-を間違えないよう正しく入れてください。
- 電池の両極に油や汚れなどが付着していると、接触不良の原因となりますので、ご注意ください。
- 電池の仕様により、連続発光して電池が高温になると発光できなくなることがあります。ただし、電池温度が下がれば、ご使用になれます。
- 電池には、低温になるほど性能が低下する性質、使用しないでおくと電圧が回復する性質、使わなくても自己放電する性質があります。ご使用になる前には電池の容量の確認を心がけて、電池は早めに交換することをおすすめします。
- 電池は、高温・多湿になる場所を避けて保管してください。
- 充電電池のご使用上の注意や充電方法などについては、各メーカーの電池および充電器の使用説明書をご覧ください。
- 危険ですので、充電電池以外は充電しないでください。



小型充電式電池のリ
サイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

表示パネルについて

■ 表示パネルの特性

- 表示パネルの液晶には指向性があります。斜め上から見ると読み取りにくくなりますが、やや下の方向から見ると読み取りやすくなります。
- 約60℃以上の高温下では、一時的に液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば表示も正常に戻ります。
- 低温下では液晶の応答速度が多少遅くなり、表示が読み取りにくくなったり、表示の切り換わりに時間がかかったりすることがありますが、常温に戻れば正常に戻ります。

■ 表示パネルバックライトの点灯、消灯

SB-5000の電源がONの状態ではボタンやスイッチを操作すると、バックライトが点灯して、表示パネルが読み取りやすくなります。

- SB-5000を操作しない状態が約16秒間続くと、バックライトは消灯します。
- 点灯しないようにするには、セットアップメニューでOFF（消灯）に設定します。（□B-19）
- OFFに設定しても、カメラ側の表示パネルの照明が点灯すると、連動してSB-5000の表示パネルの照明も点灯します。

■ 表示パネルのコントラストの設定

表示パネルのコントラストは、セットアップメニューで調整して、読み取りやすくすることができます。（□B-19）

- コントラストは9段階に設定できます。

ファームアップの方法

SB-5000のファームアップに対応したニコンデジタル一眼レフカメラでは、ニコンウェブサイトから最新のファームウェアをダウンロードして、カメラボディーからの操作でアップデートすることができます。ファームアップの詳しい方法については、ニコンウェブサイトにてご確認ください。

<http://www.nikon-image.com/support/>

- ・ファームアップ対応カメラをお持ちでない方は、ニコンサービス機関にご相談ください。(☎H-27)

SB-5000のファームアップに対応していないニコンクリエイティブライティング (CLS) 対応のニコンデジタル一眼レフカメラ

D3シリーズ、D2シリーズ、D7000、D5100、D5000、D3100、D3000、D700、D300S、D200、D90、D80、D70シリーズ、D60、D50、D40シリーズ

最新ファームウェアでSB-5000のファームアップに対応可能なCLS対応のニコンデジタル一眼レフカメラ

D4、D7100、D5200、D3200、D800E、D800、D610、D600

使用できるアクセサリ

■ スピードライトスタンド AS-22

付属品のスピードライトスタンドAS-22と同じものです。



■ カラーフィルターセット SJ-5

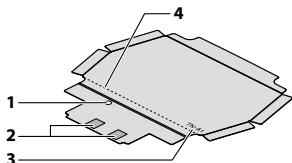
カラーフィルター8種類、20枚のセットです。カラーフィルターホルダーSZ-4に装着して使用します。

使用できるスピードライト

SB-5000

各部の名称

1. 位置合わせ穴
2. 識別コード（銀色）
3. 型番
4. 折り線



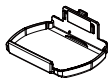
セット内容 カラーフィルター8種類、合計20枚、ケース×1個

カラーフィルター	用途
蛍光灯用カラーフィルター (FL-G1×2、FL-G2×2)	蛍光灯の光源による影響を補正
電球用カラーフィルター (TN-A1×2、TN-A2×2)	電球の光源による影響を補正
着色用カラーフィルター (RED×4、BLUE×4、YELLOW×2、AMBER×2)	スピードライトの光に着色

- ・色補正用カラーフィルターの2種類は対応する光源が多少異なり、FL-G1はFL-G2より補正効果が大きく、TN-A1はTN-A2より補正効果が大きくなります。撮影結果を見て選択してください。
- ・カラーフィルターは、必ずカラーフィルターホルダーSZ-4（別売）に装着して使用してください。

■ カラーフィルターホルダー SZ-4

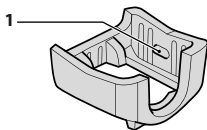
SJ-5のフィルターを装着するホルダーです。



■ ウォーターガード WG-AS4

SB-5000とニコンデジタル一眼レフカメラD5の組み合わせ時に、カメラ運動接点への水滴の浸入を軽減するカバーです。

- ・ウォーターガードは、スピードライトからしたたり落ちる水滴の浸入を軽減するものです。
- ・ウォーターガードの前後側面からの水滴を防ぐ防水機能を持つものではありません。



使用できるスピードライト

SB-5000

各部の名称

1. 固定爪

取り付け方

❶ SB-5000およびカメラの電源OFFを確認する

❷ ロックレバーが左（白丸）にあることを確認する

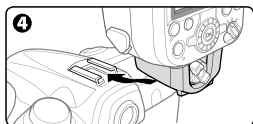
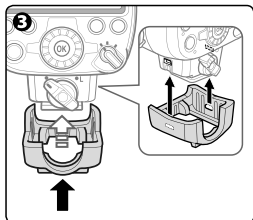
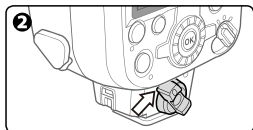
❸ スピードライトの脚部にウォーターガードをかぶせる

・軽く力を入れて押し込むと、固定爪がスピードライトの溝にはまって固定されます。

❹ 取り付け脚をアクセサリースューに差し込み、奥まで押し込む

・装着後は、ウォーターガードにめくれが生じていないことを確認してください。

❺ ロックレバーを右にLの位置まで回す



取り外し方

- ① SB-5000およびカメラの電源をOFFにしてから、ロックレバーを左に90°回し、取付け脚をゆっくり引き抜く
- ② ウォーターガード全体をつまんで下に引っ張りながら外す

お手入れについて

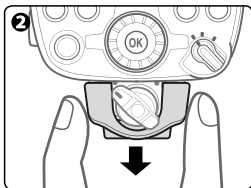
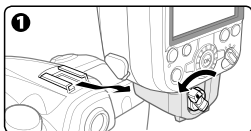
雨の日にウォーターガードを使用した後は、取り外して水分をよく拭き取ってください。

仕様

外形寸法 (W×H×D) : 約39×21.5×48mm

質量 : 約8g

仕様・外観の一部は、改良のため予告なしに変更することがあります。

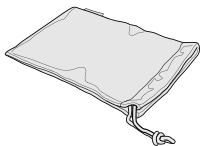


■ スレーブフラッシュコントローラー SU-4

マスターフラッシュの発光開始と発光停止をSU-4のセンサーで検知し、SU-4を取り付けたスピードライトの発光開始と停止を同じタイミングで制御するので、ワイヤレス増灯撮影ができます。

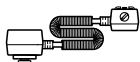


■ ソフトケース SS-DC2 (小物入れ)



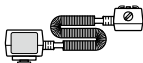
■ TTL 調光コード SC-28/17 (約1.5m)

スピードライトをカメラから離してi-TTL 調光撮影をする際に使用します。三脚取り付け用のねじ穴を備えています。



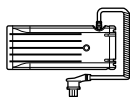
■ TTL 調光コード SC-29 (約1.5m)

スピードライトをカメラから離してi-TTL 調光撮影をする際に使用します。AF補助光機能を備えています。

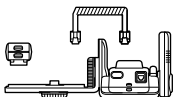


■ 外部電源

電源供給が安定し、発光回数を増やしたり発光間隔を短縮できます。



パワーアシスト
パックSD-9



パワーブラケット
SK-6



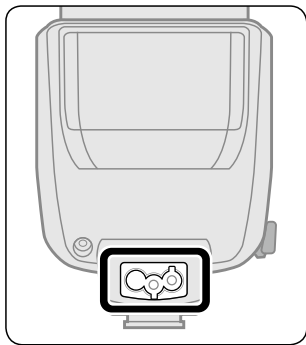
単ニパック
SD-7



パワーアシスト
パックSD-8A

- ・ 外部電源使用時でも、SB-5000本体の電池が必要です。
- ・ 他社製の外部電源と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
- ・ 連続発光を繰り返すと、発光パネル部およびフラッシュヘッドが高温になることがあります。
- ・ SK-6と組み合わせて使用する際、SB-5000のAF補助光によるピント合わせはできません。
- ・ SD-8AまたはSK-6使用時に、発光はSB-5000内の電源のみで行われ、外部電源は作動しない場合がありますが、故障ではありません。

外部電源の接続方法



外部電源コネクターのキャップを外し、電源コードを接続してください。

- SD-7の接続には、電源コードSC-16Aをご使用ください。SC-16は使用できません。

☑ パワーアシストパックSD-9、SD-8A使用時のご注意

電池8本を使用したSD-9あるいは電池6本を使用したSD-8Aを併用して8コマ/秒相当の連続発光を長く続けると、フラッシュヘッド前方が高温になる場合がありますので、ご注意ください。また、SD-9あるいはSD-8Aをカメラに固定した状態でフラッシュ撮影をすると、筋状のノイズが写り込むことがあります。その場合は、ISO感度を下げるか、SD-9あるいはSD-8Aをカメラから離してお使いください。

主な仕様

外部電源	使用電池	最短発光間隔 ^{*1}	発光回数 ^{*2} /発光間隔 ^{*1}
パワーアシストパック SD-9 ^{*3}	1.5Vアルカリ単3形電池×4本	約1.4秒	300回以上/1.4～30秒
	1.2Vニッケル水素単3形充電電池×4本	約0.9秒	320回以上/0.9～30秒
	1.5Vアルカリ単3形電池×8本	約0.9秒	480回以上/0.9～30秒
	1.2Vニッケル水素単3形充電電池×8本	約0.5秒	430回以上/0.5～30秒
パワーアシストパック SD-8A ^{*3}	1.5Vアルカリ単3形電池×6本	約1.5秒	300回以上/1.5～30秒
	1.2Vニッケル水素単3形充電電池×6本	約1.1秒	260回以上/1.1～30秒

※1 発光間隔は、30秒に1回の発光を行ったときのフル発光相当からレディーライト点灯までの時間です。

※2 発光回数は、30秒に1回の発光を行ったときの、フル発光相当から30秒以内にレディーライトが点灯する回数です。

※3 SB-5000、外部電源共に同じタイプの電池を使用。

・電池初期での性能です。電池の新旧、および同じ銘柄でも、電池性能の変更等によってデータが異なることがあります。

仕様

形式	直列制御方式 TTL 自動調光スピードライト
ガイドナンバー (照射角 35mm、FX フォーマット、スタンダード配光時)	34.5 (ISO 100・m)
調光範囲 (i-TTL 調光/絞リ連動外部自動調光/外部自動調光時)	0.6m~20m (フォーマット、配光タイプ、ISO 感度、照射角、絞リ値によって異なります)
配光画角	配光タイプ切り換え (スタンダード配光/均質配光/中央部重点配光) FX/DX 切り換え対応
発光モード	<ul style="list-style-type: none">・ i-TTL 調光・ 絞リ連動外部自動調光・ 外部自動調光・ 距離優先マニュアル発光・ マニュアル発光・ リピーティング発光
その他の発光機能	テスト発光/モニター発光/マルチポイント AF 補助光/ モデリング発光
ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS)	対応カメラと組み合わせると、次の機能が可能。 i-TTL 調光/アドバンスワイヤレスライティング/ モデリング発光/FV ロック撮影/発光色温度情報伝達/ オート FP ハイスピードシンクロ撮影/マルチポイント AF 補助光/ユニファイドフラッシュコントロール
増灯撮影機能	<ul style="list-style-type: none">・ アドバンスワイヤレスライティング撮影・ ダイレクトリモートのワイヤレス増灯撮影 (リモートモード)
バウンス角度	垂直方向: 上方向 90°~正面~下方向 7° (クリック: 下 7°/正面/45°/60°/75°/90°) 水平方向: 左方向 180°~右方向 180° (クリック: 正面/30°/60°/75°/90°/120°/150°/ 180°)
電源 ON/OFF	電源スイッチによる切り換え スタンバイ機能設定可能

使用電池	次の単3形電池の同一種類を4本 1.5Vアルカリ単3形電池 1.2Vニッケル水素単3形充電電池 使用電池別の最短発光間隔、発光回数は□H-19
レディーライト	充電完了：点灯 光量不足警告（i-TTL調光/絞り連動外部自動調光/外部自動調光/距離優先マニュアル発光時/ダイレクトリモートのAUTOモード時）：点滅
AF補助光 (リモートモード時)	充電完了：点滅後、消灯 光量不足警告（i-TTL調光/絞り連動外部自動調光/外部自動調光/ダイレクトリモートのAUTOモード時）：点滅
閃光時間	約 1/980 秒：M 1/1 発光 (FULL) 約 1/1110 秒：M 1/2 発光 約 1/2580 秒：M 1/4 発光 約 1/5160 秒：M 1/8 発光 約 1/8890 秒：M 1/16 発光 約 1/13470 秒：M 1/32 発光 約 1/18820 秒：M 1/64 発光 約 1/24250 秒：M 1/128 発光 約 1/30820 秒：M 1/256 発光
ロックレバー	ロックプレートおよびロックピンにより、アクセサリシューからの脱落を防止。
調光補正	+3.0～-3.0の範囲で1/3段ステップで調光可能。 (i-TTL調光/絞り連動自動調光/外部自動調光/距離優先マニュアル発光時)
メニュー設定	全24項目
その他の機能	ISO感度設定/TTL調光アンダー量再表示/初期設定へのリセット/キーロック/過熱防止/ファームアップ
寸法 (W×H×D)	約73×137×103.5mm
質量	約520g (1.5Vアルカリ単3形電池×4本を含む) 約420g (本体のみ)
付属品	スピードライトスタンド AS-22、 バウンスアダプター SW-15H、 カラーフィルター（蛍光灯用） SZ-4FL、 カラーフィルター（電球用） SZ-4TN、 ソフトケース SS-5000、 小物入れ

- ・仕様データはCIPA（カメラ映像機器工業会）の規格またはガイドラインに準拠しています。
- ・製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- ・使用説明書および活用ガイドの誤りなどについての補償はご容赦ください。
- ・本書記載の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

■ 電池別の発光間隔と発光回数

電池	最短発光間隔※1	発光回数※2 / 発光間隔※1
1.5Vアルカリ単3形電池	約2.6秒	150回以上/2.6～30秒
1.2Vニッケル水素単3形充電電池	約1.8秒	190回以上/1.8～30秒

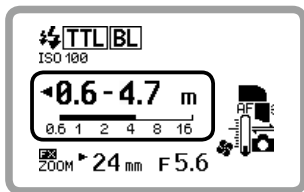
※1 発光間隔は、30秒に1回の発光を行ったときのフル発光相当からレディーライト点灯までの時間です。

※2 発光回数は、30秒に1回の発光を行ったときの、フル発光相当から30秒以内にレディーライトが点灯する回数です。

- ・CIPA（カメラ映像機器工業会）の規格に準拠しています。
- ・AF補助光・ズーム作動・表示パネルのバックライトを使用しない場合の数値です。
- ・電池初期での性能です。電池の新旧、および同じ銘柄でも、電池性能の変更などによってデータが異なることがあります。

■ 調光範囲

(i-TTL 調光 / 絞り連動外部自動調光 / 外部自動調光 共通)



SB-5000の調光範囲は0.6m～20mです。調光範囲はフォーマット、配光タイプ、ISO感度、照射角、絞り値によって異なります。

- ・各設定状態での調光範囲は、表示パネルで確認できます。

■ ガイドナンバー表

SB-5000のガイドナンバーはFX/DXフォーマット、配光タイプ、ISO感度、照射角、発光量によって異なります。

ISO 100・m

照射角 (mm)	FXフォーマット			DXフォーマット		
	スタンダード 配光	均質配光	中央部 重点配光	スタンダード 配光	均質配光	中央部 重点配光
8 (BA+WP)	—	—	—	—	—	11.5
8 (BA)	—	—	—	—	—	15.5
8 (WP)	—	—	—	—	—	14.5
10 (BA+WP)	—	—	—	11.5	—	—
10 (BA)	—	—	—	15.5	—	—
10 (WP)	—	—	—	14.5	—	—
11 (BA+WP)	—	—	—	—	11.5	—
11 (BA)	—	—	—	—	15.5	—
11 (WP)	—	—	—	—	14.5	—
12 (BA+WP)	—	—	11.5	—	—	—
12 (BA)	—	—	15.5	—	—	—
12 (WP)	—	—	14.5	—	—	—
14 (BA+WP)	11.5	—	—	—	—	—
14 (BA)	15.5	—	—	—	—	—
14 (WP)	14.5	—	—	—	—	—
16	—	—	—	27	26	28
17 (BA+WP)	—	11.5	—	—	—	—
17 (BA)	—	15.5	—	—	—	—
17 (WP)	—	14.5	—	—	—	—
17	—	—	—	28	26.5	29
18	—	—	—	29	27.5	30.5
20	—	—	—	31	29	32.5
24	27	26	28	35	32	36.5
28	29.5	28	31	37.5	34.5	39
35	34.5	31.5	36	41	37.5	43

照射角 (mm)	FX フォーマット			DX フォーマット		
	スタンダード 配光	均質配光	中央部 重点配光	スタンダード 配光	均質配光	中央部 重点配光
50	40.5	37	42	45.5	42	47
70	45	41	46.5	50	46	51.5
85	47	43.5	48.5	52	48.5	54.5
105	50	46	51.5	54	50	—
120	51.5	47.5	53.5	54.5	51	—
135	53	49	55	55	52	—
180	54.5	51	—	—	52.5	—
200	55	52	—	—	53	—

BA : バウンスアダプター装着時

WP : ワイドパネル使用時

FXフォーマットガイドナンバー表

■ スタンダード配光、ISO 100・m

発光量	照射角 (mm)													
	14			24	28	35	50	70	85	105	120	135	180	200
	WP+BA	BA	WP											
1/1	11.5	15.5	14.5	27	29.5	34.5	40.5	45	47	50	51.5	53	54.5	55
1/2	8.1	11	10.3	19.1	20.9	24.4	28.6	31.8	33.2	35.4	36.4	37.5	38.5	38.9
1/4	5.7	7.7	7.2	13.5	14.8	17.3	20.3	22.5	23.5	25	25.8	26.5	27.3	27.5
1/8	4	5.4	5.1	9.5	10.4	12.2	14.3	15.9	16.6	17.7	18.2	18.7	19.3	19.4
1/16	2.8	3.8	3.6	6.7	7.3	8.6	10.1	11.3	11.8	12.5	12.9	13.3	13.6	13.8
1/32	2	2.7	2.5	4.7	5.2	6.1	7.1	7.9	8.3	8.8	9.1	9.3	9.6	9.7
1/64	1.4	1.9	1.8	3.3	3.6	4.3	5	5.6	5.8	6.2	6.4	6.6	6.8	6.8
1/128	1	1.3	1.2	2.3	2.6	3	3.5	3.9	4.1	4.4	4.5	4.6	4.8	4.8
1/256	0.7	0.9	0.9	1.6	1.8	2.1	2.5	2.8	2.9	3.1	3.2	3.3	3.4	3.4

DXフォーマットガイドナンバー表

■ スタンダード配光、ISO 100・m

発光量	照射角 (mm)															
	10			16	17	18	20	24	28	35	50	70	85	105	120	135
	WP+BA	BA	WP													
1/1	11.5	15.5	14.5	27	28	29	31	35	37.5	41	45.5	50	52	54	54.5	55
1/2	8.1	11	10.3	19.1	19.8	20.5	21.9	24.7	26.5	29	32.2	35.4	36.8	38.2	38.5	38.9
1/4	5.7	7.7	7.2	13.5	14	14.5	15.5	17.5	18.8	20.5	22.8	25	26	27	27.3	27.5
1/8	4	5.4	5.1	9.5	9.9	10.3	11	12.4	13.3	14.5	16.1	17.7	18.4	19.1	19.3	19.4
1/16	2.8	3.8	3.6	6.7	7	7.2	7.7	8.7	9.3	10.3	11.4	12.5	13	13.5	13.6	13.8
1/32	2	2.7	2.5	4.7	4.9	5.1	5.4	6.1	6.6	7.2	8	8.8	9.1	9.5	9.6	9.7
1/64	1.4	1.9	1.8	3.3	3.5	3.6	3.8	4.3	4.6	5.1	5.6	6.2	6.5	6.7	6.8	6.8
1/128	1	1.3	1.2	2.3	2.4	2.5	2.7	3	3.3	3.6	4	4.4	4.6	4.7	4.8	4.8
1/256	0.7	0.9	0.9	1.6	1.7	1.8	1.9	2.1	2.3	2.5	2.8	3.1	3.2	3.3	3.4	3.4

BA：バウンスアダプター装着時

WP：ワイドパネル使用時

FP発光時のガイドナンバー表

■ FXフォーマット、スタンダード配光、ISO 100・m

発光量	照射角 (mm)													
	14			24	28	35	50	70	85	105	120	135	180	200
	WP+BA	BA	WP											
1/1	4.7	6.3	5.9	11	12	14	16.4	18.3	19.1	20.3	20.9	21.5	22.1	22.3
1/2	3.3	4.4	4.1	7.7	8.4	9.9	11.6	12.9	13.5	14.4	14.8	15.2	15.6	15.8
1/4	2.3	3.1	2.9	5.5	6	7	8.2	9.1	9.5	10.2	10.5	10.8	11.1	11.2
1/8	1.6	2.2	2	3.8	4.2	4.9	5.8	6.4	6.7	7.1	7.3	7.6	7.8	7.8
1/16	1.1	1.5	1.4	2.7	3	3.5	4.1	4.5	4.7	5	5.2	5.3	5.5	5.5
1/32	0.8	1.1	1	1.9	2.1	2.4	2.9	3.2	3.3	3.5	3.6	3.8	3.9	3.9
1/64	0.5	0.7	0.7	1.3	1.5	1.7	2	2.2	2.3	2.5	2.6	2.6	2.7	2.7
1/128	0.4	0.5	0.5	0.9	1	1.2	1.4	1.6	1.6	1.7	1.8	1.9	1.9	1.9

■ DXフォーマット、スタンダード配光、ISO 100・m

発光量	照射角 (mm)															
	10			16	17	18	20	24	28	35	50	70	85	105	120	135
	WP+BA	BA	WP													
1/1	4.7	6.3	5.9	11	11.4	11.8	12.6	14.2	15.2	16.6	18.5	20.3	21.1	21.9	22.1	22.3
1/2	3.3	4.4	4.1	7.7	8	8.3	8.9	10	10.7	11.7	13.1	14.4	14.9	15.5	15.6	15.8
1/4	2.3	3.1	2.9	5.5	5.7	5.9	6.3	7.1	7.6	8.3	9.2	10.2	10.6	11	11.1	11.2
1/8	1.6	2.2	2	3.8	4	4.1	4.4	5	5.3	5.8	6.5	7.1	7.4	7.7	7.8	7.8
1/16	1.1	1.5	1.4	2.7	2.8	2.9	3.1	3.5	3.8	4.1	4.6	5	5.2	5.4	5.5	5.5
1/32	0.8	1.1	1	1.9	2	2	2.2	2.5	2.6	2.9	3.2	3.5	3.7	3.8	3.9	3.9
1/64	0.5	0.7	0.7	1.3	1.4	1.4	1.5	1.7	1.9	2	2.3	2.5	2.6	2.7	2.7	2.7
1/128	0.4	0.5	0.5	0.9	1	1	1.1	1.2	1.3	1.4	1.6	1.7	1.8	1.9	1.9	1.9

FP発光時のガイドナンバーはシャッター速度1/500秒、D5カメラ装着時の値です。上記FP発光時のガイドナンバーはシャッター速度によって変化します。例えばシャッター速度が1/500から1/1000になるとガイドナンバーは1段（約1/1.4）小さくなります。つまり高速になるほどガイドナンバーは小さくなります。

BA：バウンスアダプター装着時

WP：ワイドパネル使用時

索引

英数字／五十音順

各部の名称については「各部の名称」(□B-1)をご覧ください。

英数字

iボタン	B-9
iメニュー	B-9
AF補助光	E-20
AF補助光(リモート時)	D-37
AF-ILL ONLY	E-21
AUTO(オートモード)	D-28
BL(バランス)調光	A-4、C-2
CLS	A-4
CLS対応カメラ	A-2
CLS対応COOLPIX	G-1
CLS非対応一眼レフカメラ	F-1
COOLPIX	G-1
CPUレンズ	A-3
DXフォーマット	A-6、B-21
EV(露出値)	A-7
FP発光	E-26
FVロック撮影	E-27
FXフォーマット	A-6、B-21
GN(ガイドナンバー)	H-5
GN(距離優先マニュアル発光)	C-13
i-TTL-BL調光	C-2
i-TTL調光	C-1
i-TTL調光対応COOLPIX	G-1
ISO感度	C-1

ISO感度係数	H-5
M(マニュアルモード)	D-28
MENUボタン	B-19
OFF(受光禁止)	D-29
OKボタン	B-3
REMOTE	D-8
TTL調光アンダー量	C-3
TTL調光コード	H-14

ア

アイコン	B-4
赤目軽減発光撮影	E-27
アクセサリ	H-11
アドバンストワイヤレス	
ライティング撮影	D-15
後幕シンクロ撮影	E-28
色補正用カラーフィルター	E-12
ウォーターガード	H-12
オートFPハイスピード	
シンクロ撮影	E-26
オートパワーズーム	E-19

カ

ガイドナンバー	H-5
ガイドナンバー表	H-20
外部自動調光	C-10

- 外部自動調光用センサー窓
……………C-7、C-10
 - 外部電源……………H-14
 - カスタムメニュー……………B-21
 - 過熱防止……………E-24
 - 下方バウンス……………B-16、E-11
 - カラーフィルター……………E-12
 - カラーフィルター識別センサー
……………E-15
 - カラーフィルターセット……………H-11
 - カラーフィルターホルダー
……………E-14、H-11
 - キーロック……………B-8
 - キャッチライト反射板……………E-8
 - 距離優先マニュアル発光……………C-13
 - 近距離撮影……………E-9
 - 均質配光……………E-2
 - グループ……………D-6
 - 蛍光灯用カラーフィルター……………E-12
 - 警告表示……………H-3
 - 光量不足警告
…C-3、C-9、C-12、C-14、D-37、D-38
- サ**
- 最短発光間隔……………H-19
 - サウンドモニター……………D-37
 - 先幕シンクロナイズメント……………E-28
 - 撮像範囲（フォーマット）……………A-6
 - 絞り値……………C-1、H-5
 - 絞り連動外部自動調光……………C-7
 - 周波数……………C-16
 - 受光禁止……………D-29
- 照射角……………E-19
 - 初期設定……………A-6
 - スタンダードi-TTL 調光……………C-2
 - スタンダード配光……………E-2
 - スタンバイ……………E-24
 - スタンバイ機能の設定……………B-25
 - スピードライトスタンド…D-31、H-11
 - スリーブフラッシュ
 コントローラー……………H-13
 - スローシンクロナイズメント
 （スローシャッター）撮影……………E-27
 - セットアップメニュー……………B-23
 - 増灯撮影……………D-1
 - 増灯リピーティング発光……………D-23
- タ**
- ダイレクトリモートの
 ワイヤレス増灯撮影……………D-27
 - 着色用カラーフィルター……………E-12
 - チャンネル……………D-6
 - 中央部重点配光……………E-2
 - 調光距離……………A-6
 - 調光範囲……………A-6
 - 調光補正……………E-18
 - 調光補正值……………E-18
 - ツォーボタンリセット……………B-10
 - テスト発光……………E-22
 - 電球用カラーフィルター……………E-12
 - 電源スイッチ……………B-3
 - 電池……………B-13、H-8
 - 電池交換……………B-13
 - 電池容量不足画面……………B-14

電波制御ワイヤレス増灯撮影……D-3
取付け脚……B-14

ナ

ニコンクリエイティブライティング
システム (CLS) ……A-4
ニコンコンパクトデジタルカメラ
COOLPIX ……G-1

ハ

配光タイプ……E-2
バウンスアダプター……E-6
バウンス撮影……E-3
バックライト……H-9
発光回数……C-16、H-19
発光間隔……H-19
発光モード……B-18、C-1、D-6
発光量……C-5、C-16
バランス調光……A-4、C-2
反転表示……B-4
光制御ワイヤレス増灯撮影……D-4
表示パネル……H-9
ファームアップ……H-10
ファームウェアバージョン……B-25
フォーマット (撮像範囲)……A-6
フラッシュヘッド……B-16、E-3
フラッシュヘッド
ロック解除ボタン……B-16、E-3
ホワイトバランス……E-16
本発光禁止……E-21

マ

マスターフラッシュ (主灯)
……A-5、D-7
マスターモード……D-6、D-7
マニュアル発光……C-4
無線項目メニュー……B-22
モデリング発光……E-23
モデリング発光ボタン……B-3
モニター発光……C-7、C-10

ヤ

ユニファイドフラッシュ
コントロール……B-11

ラ

リピーティング発光……C-15
リモートフラッシュ (補助灯)
……A-5、D-8、D-31
リモートモード……D-6、D-8
レディーライト……B-18、D-37
ロータリーマルチセレクター
……B-3、B-5
ロックレバー……B-14

ワ

ワイドパネル……E-10
ワイヤレス設定ボタン
……B-3、B-7、D-7、D-8
ワイヤレス増灯撮影……D-1
ワイヤレスリモート
センサー窓……D-33

ニコンプラザ、サービスセンターのご案内

■ニコンプラザ

ショールーム、サービスセンター、ギャラリーを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。充実したサポートサービスを通して、お客さまのデジタルイメージングの世界を広げ、写真文化の普及、向上に資することを目指しています。

ニコンプラザ銀座

〒104-0061 東京都中央区銀座7-10-1 ストラータ ギンザ 1・2階

営業時間：10:30～18:30

(年末年始、2月の第1土曜日とその翌日、8月の第2土曜日とその翌日を除く毎日)

ニコンプラザ新宿

〒163-1528 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー 28階

営業時間：10:30～18:30

(年末年始、2月11日・12日、8月の第3日曜日とその翌日を除く毎日)

ニコンプラザ名古屋

〒461-0005 名古屋市東区東桜1-13-3 NHK名古屋放送センタービル 2階

営業時間：10:30～18:30 (日曜日、祝日、年末年始を除く毎日)

ニコンプラザ大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田2-2-2

ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー 13階

営業時間：10:30～18:30

(年末年始、2月の第3土曜日とその翌日、8月の第3土曜日とその翌日を除く毎日)



ニコンプラザショールーム (ナビダイヤル)

0570-02-8080



ニコンプラザサービスセンター (ナビダイヤル)

0570-02-8060

* 音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるニコンプラザをお選びください。

■サービスセンター

ニコン映像製品のメンテナンスサポートの窓口です。カメラ製品の展示の他、ご質問、ご相談もお受けしています。お気軽にご来所ください。

札幌サービスセンター

〒060-0807 札幌市北区北7条西4-3-1 新北海道ビルディング 2階

福岡サービスセンター

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-4-1 博多駅前第一生命ビル 1階

(各サービスセンター共通)

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏季休業など弊社定休日を除く毎日）



(ナビダイヤル)

0570-02-8050

*音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるサービスセンターをお選びください。

-
- ナビダイヤルは一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
 - ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577（ニコン カスタマーサポートセンター）におかけください。

アフターサービスについて

■ この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- ・ 使い方に関するご質問は、次ページに記載の「ニコン カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- ・ 修理に関するご質問は、次ページに記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- ・ お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ・ ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX 番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■ 修理を依頼される場合は

ニコンサービス機関（ニコンプラザ、サービスセンター、修理センター）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。

- ・ ニコンサービス機関について詳しくは、「ニコンプラザ、サービスセンターのご案内」（□H-27）および次ページをご覧ください。

■ 補修用性能部品について

この製品の補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- ・ 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

製品の使い方に関するお問い合わせ

<ニコン カスタマーサポートセンター>

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。



0570-02-8000

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

営業時間：9:30～18:00(年末年始、夏期休業日等を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、(03)5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

<ニコン ピックアップサービス>

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。
※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。



0120-02-8155

営業時間：9:00～18:00(年末年始12/29～1/4を除く毎日)

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)にて承ります。

製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

<(株)ニコンイメージングジャパン 修理センター>

230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26



0570-02-8200

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

営業時間：9:30～18:00(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

<ニコンイメージング/サポートページ>

●<http://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。

※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。

●<http://www.nikon-image.com/support/repair/>

「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**